

平成 2 1 年第 3 回 (8 月) 伊豆市議会臨時会会議録目次

第 1 号 (8 月 5 日)

議事日程.....	1
本日の会議に付した事件.....	1
出席議員.....	1
欠席議員.....	1
地方自治法第 1 2 1 条により説明のため出席した者の職氏名.....	1
職務のため出席した者の職氏名.....	2
開会宣告.....	3
開議宣告.....	3
議事日程説明.....	3
会議録署名議員の指名.....	3
会期の決定.....	3
報告第 9 号の上程、説明、質疑.....	3
議案第 5 7 号の上程、説明、質疑、委員会付託.....	5
散会宣告.....	4 5

第 2 号 (8 月 7 日)

議事日程.....	4 7
本日の会議に付した事件.....	4 7
出席議員.....	4 7
欠席議員.....	4 7
地方自治法第 1 2 1 条により説明のため出席した者の職氏名.....	4 7
職務のため出席した者の職氏名.....	4 7
開議宣告.....	4 9
議事日程説明.....	4 9
議案第 5 7 号の委員長報告、質疑、討論、採決.....	5 0
日程の追加.....	6 8
議案第 5 8 号の上程、説明、質疑、討論、採決.....	6 8
閉会宣告.....	7 3
署名議員.....	7 5

開会 午前 9時30分

開会宣告

議長（飯田宣夫君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから平成21年第3回伊豆市議会臨時会を開会いたします。

開議宣告

議長（飯田宣夫君） ただいまの出席議員は20名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

議事日程説明

議長（飯田宣夫君） 議案説明のため、地方自治法第121条の規定により、市長以下職員の出席を求めましたので、報告いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

会議録署名議員の指名

議長（飯田宣夫君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第81条の規定により、議長において指名いたします。1番、鈴木初司議員、20番、木村建一議員を指名いたします。

会期の決定

議長（飯田宣夫君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りします。今臨時会の会期は、本日から8月7日までの3日間としたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） ご異議なしと認めます。

よって、会期は、本日から8月7日までの3日間と決定いたしました。

報告第9号の上程、説明、質疑

議長（飯田宣夫君） 日程第3、報告第9号 専決処分の報告について（交通事故に伴う和解及び損害賠償の決定）を議題といたします。

提出者から報告を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

市長（菊地 豊君） 皆さん、おはようございます。

報告第9号 専決処分の報告について提案理由を申し上げます。

今回報告するものは、交通事故に伴う和解及び損害賠償の額の決定について報告するものでございます。

詳細につきまして総務部長に説明させますので、よろしくお願いたします。

議長（飯田宣夫君） 本件の報告について補足説明の申し出がありますので、これを許します。

総務部長。

〔総務部長 平田秀人君登壇〕

総務部長（平田秀人君） それでは、議案の3ページをごらんいただきたいと思ひます。

専決処分書の補足説明を申し上げます。

今回、公用車の駐車場内における事故のこの額の決定につきまして、ご報告申し上げるものでございます。

事故の概要でございますけれども、沼津の法務局の駐車場内におきまして、公務出張中の公用車、それから相手方でございますが、沼津の振興公社の公用車ということで、公用車同士の接触事故に伴います損害賠償の額の補償額でございます。

損害賠償の額としまして8万4,105円ということでございます。

事故の概要につきましては、裏面に図面等ございます。法務局の駐車場におきまして、公用車が後退している際に、相手車両に接触させたというものでございます。相手方との損害賠償額が決定いたしましたので、この議会によって専決処分をさせていただきますので、ここで報告をいたすものでございます。

以上でございます。

議長（飯田宣夫君） 以上で説明が終わりました。

これより質疑を行います。

質疑はありませんか。

12番、森議員。

12番（森 良雄君） 12番、森です。

毎度同じような事故が発生していると思うんですね。不注意による事故だと思うんですけども、この程度の事故で処分しろとは言いませんけれども、当事者にどのような注意がなされているのか、それから再発防止についてどのようなふうに対処しているのかお聞きしたい。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 答弁願ひます。

市長。

市長（菊地 豊君） 大きな事故ではありませんが、ここずっとこのような接触事故が続い

ておりまして、市民の皆さんに大変申しわけなく存じております。

ただ、今回の、重大な過失ということではなくて、不注意でございますので、引き続き、また改めて職員のほうには直接指導もしておりますけれども、また全職員に対しても、また改めて指導をしてまいりたい。特に交通量の多い夏におきまして、再度、私からも指導しておきたいと思っております。

議長（飯田宣夫君） 再質疑はよろしいですか。

12番（森 良雄君） はい。

議長（飯田宣夫君） そのほか、質疑はありますか。

〔発言する人なし〕

議長（飯田宣夫君） これで質疑を終結いたします。

以上で報告を終わります。

議案第57号の上程、説明、質疑、委員会付託

議長（飯田宣夫君） 日程第4、議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）を議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

市長（菊地 豊君） 議案第57号について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、国の1次補正予算に伴う地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業に対応した事業を実施することと、安心・安全のための施策推進である女性特有のがん検診推進事業の実施、参議院議員の欠員による補欠選挙事務事業の追加及び緊急雇用創出事業に対応した臨時職員の雇い上げを実施し、また、伊豆魅力プロジェクト事業立ち上げに伴う助成金を追加するものでございます。総額で6億2,042万円余を追加する内容となっております。

なお、財源は、地域活性化・経済危機対策臨時交付金に5億1,214万円、女性特有のがん検診推進事業補助金に577万円、安全・安心な学校づくり交付金375万円、緊急雇用創出事業等の県補助金807万円、参議院議員補欠選挙委託金2,100万円などを充当いたします。伊豆魅力プロジェクト推進事業は市単独事業となり、地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業の一般財源分と合わせて繰越金で対応いたします。

なお、今回の補正予算の基本的な考え方につきまして、さらに申し述べます。

今回は、地域活性化・経済危機対策臨時交付金の活用策が主たる部分であり、その特性から、将来の産業振興に寄与すること、年度内に執行できることを2条件として検討してまいりました。その中で、産業振興策として、今回は観光を重視いたしました。これからも企業誘致等、あるいは市内の企業の振興策等は引き続き進めてまいりますが、仮に企業誘致等を図った場合にも、10年単位の施策であり、また第一次産業、農林業、水産業等の振興は観光の

再興、復活とリンクさせることが最も効果的であると考え、伊豆市には既に十分な観光資源があることから、この活性化は経済対策の即効薬となり得ると判断をいたしました。

また、市内全域の均衡発展を考える場合には、国や県の事業と市単独事業を総合的に見る必要があり、また、国・県に要望する事業や国・県の補助を受けて行うことができる事業は今回の対象から外しました。

その中で、重点事業として、今回の中ではスポーツ施設整備と出会い橋のかけかえがメインとなっております。特に、スポーツ振興によって交流人口をふやす施策は、昨年秋以来、市長として各方面に呼びかけてきたものであり、また出会い橋は昨年度から検討を重ねてきたものであり、いずれも先ほど申しあげました条件に合致するものであることから、また将来にわたる投資効果も期待できることから重点投資をさせていただきたいと思っております。

そのうち、まずスポーツ事業振興について、いわゆるスポーツ・グリーン・ツーリズムの振興というものをこれから図っていきたいと思っております。伊豆半島における伊豆市の優位性はスポーツ施設にあります。このたび、改めて近隣5市、当市、熱海市、伊東市、伊豆の国市、下田市のスポーツ施設の現状を調べたところ、19の種目等の中で16の種目等に関し、伊豆市の施設が一番すぐれているというような実態が明らかになっています。また、そのスポーツ施設をこの自然環境や温泉等と複合的に活用することで、スポーツ・グリーン・ツーリズム的な施策、つまりスポーツ事業とそれから子供たち等に対するグリーン・ツーリズムをあわせて、観光客として流入人口を高める施策というものを総合的にやってまいりたいと考えております。その中の交付金を活用したハードの整備として、この中では狩野ドーム、ふるさと広場、ふるさと広場の中の天城ドーム、そして丸山スポーツ公園、ここに重点投資をいたしました。

また、スポーツ・グリーン・ツーリズムは施設整備だけで成功するものではありません。施設を活用して集客をふやすソフトの強化こそが命であると思っております。

そこで、体育協会や観光協会など、関係者全員による伊豆魅力プロジェクトを7月28日に立ち上げ、関係する全員が一丸となって伊豆の魅力をPRし、スポーツ施設を使用するお客様に対するワンストップサービスを構築いたします。魅力プロジェクトの幹事会はあさって、8月7日に第1回目を開催いたします。

なお、今回、伊豆魅力プロジェクトの立ち上げのための組織の中では、各団体の長の方に参加をいただきましたけれども、これ以降はプロジェクトの中で一緒に活動する意欲のある個々の事業者の皆さんに手を挙げて参加をしていただきたいと思います。

続いて、同じく交付金を使います出会い橋につきまして、湯ヶ島温泉の中にございます出会い橋は、平成4年、湯ヶ島温泉の魅力アップのために全線木造で建設された市の道、市道でございます。近年、腐食が進み、緊急の補修はしたものの、危険な状況でございます。市道であることから、早急に安全対策を講じる必要性があり、また湯ヶ島温泉の観光振興のためには欠かせない施設であることから、予算計上をさせていただきました。

予算規模は約2億円、宿泊客1人当たりの経済効果を2万円と仮定いたしますと、費用対効果としては宿泊客を1万人ふやす必要があります。仮に5年間で回収を見込むとすれば、年間2,000人の増員が必要となります。地元湯ヶ島温泉の観光関係の皆さんには、出会い橋及び今回も予算計上させていただいております湯道を整備することで、2,000人の宿泊客増員を何としても目指していただきたい、また市としても地元の努力を全力で支えてまいりたいと思っております。

なお、最近になって、地元湯ヶ島温泉の宿泊、ドライブイン、その他の関係者の皆さんから、改めて湯ヶ島地区のまちづくりのための検討及び活動を開始する動きがあるやに聞いております。

その他の事業の中で、観光商品券について申し上げます。

5月15日に発売開始した伊豆市元気もりもり商品券は、1カ月弱で2億円を売り終わりました。この種のプレミアムつき商品券のニーズの高さを改めて実感した次第でございます。

そこで、元気もりもり商品券は、定額給付金を市内で使っていただくための伊豆市から見た場合の内需対策でございましたが、観光立市である伊豆市の特性にかんがみ、ほぼ同様のプレミアムつき商品券を主として市外の方々に販売するのがこの事業でございます。総額は3億円といたしました。大変大きな金額であり、当事者である観光関係者には、石にかじりついてでも、全額を売り切る気構えを持っていただきたいと考えております。

その他、教育分野、安全・安心のための事業などで約1億5,000万円、選挙費用として約2,000万円の補正予算を組んでおり、詳細につきましては総務部長から説明をさせます。

よろしく願いいたします。

議長（飯田宣夫君） これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

総務部長。

〔総務部長 平田秀人君登壇〕

総務部長（平田秀人君） それでは、議案第57号について補足説明申し上げます。

お手元に補正予算の概要ということで、図面、位置図の入った資料があるかと思えます。あわせてごらんをいただきたいと思えます。

内容のほうをごらんいただければ、事業の概要等、位置図、掲載されておりますので、議案に沿いまして説明を申し上げて、参考にさせていただきたいと思えます。

まず、5ページでございます。

今回補正額でございます。6億2,042万1,000円を増額しまして、歳入歳出総額の予算144億889万3,000円とするものでございます。

6ページ、7ページ、款項の状況でございます。

歳入、国庫支出金、補正額5億2,165万9,000円、県支出金2,906万6,000円、繰越金6,969万6,000円、歳入合計としまして6億2,042万1,000円でございます。

歳出、款の補正額のみ申し上げます。

総務費 6億6,001万5,000円、民生費1,050万円、衛生費1,584万6,000円、商工費 1億5,987万円、土木費 2億2,000万円、教育費 1億4,819万円でございます。

参考資料という形になりますが、以下 8 ページ、9 ページ以降、ごらんいただきたいと思っております。

まず、8 ページ、9 ページ、歳入の款の詳細でございます。

今回、経済危機対策臨時交付金、それからそれに準じます国・県の補助金、基本的にはいわゆる10分の10の補助金を充当して事業を行うということでございます。国県の補助金、それから一部財源調整としまして繰越金を充当したというものでございます。

9 ページの説明資料のほうでごらんいただきたいと思っておりますが、まず国庫補助金でございます。女性特有のがん検診推進事業補助金577万円でございます。これは歳入のほうでございます。その下の教育費補助金、安全・安心な学校づくり交付金375万円、これは事業費に対する2分の1の補助、小中学校の情報通信技術環境整備事業ということで、この2分の1を国庫で得まして、その補助裏の2分の1を緊急対策で充当するというものでございます。

それから、総務費の国庫補助金として、地域活性化・経済危機対策臨時交付金ということで、伊豆市の枠、配分額ということで、今回、第1次補正として配分された額で5億1,213万9,000円というものでございまして、これに対して14事業ほどの事業を充当しております。

16款県支出金、緊急雇用創出事業臨時特例対策事業費補助金ということで806万6,000円、2事業を追加するものでございます。

県支出金の委託金としまして、参議院議員補欠選挙委託金2,100万円でございます。

繰越金6,969万6,000円、これは歳入のほうでございます。

次のページ、歳出になります。

事業項目ごとに、事業費、金額等を申し上げます。

まず、総務管理費の財産管理費、太陽光発電設備設置工事ということで、生きプラの屋上に太陽光発電設備を設置しようというもので、4,500万円でございます。

総務費の選挙費、参議院議員補欠選挙費ということで2,101万5,000円ということで、今回新たに追加補正をさせていただくものでございます。

12、13ページ、中段でございます。

民生費の社会福祉費、その他事務事業として1,050万円、これは住宅用火災報知器の購入費補助金ということで、新たに火災報知器設置に対しまして助成事業を設けよう。それに対する市の単独事業分、それから補助事業分ということで、1,050万円でございます。

衛生費でございます。衛生費で健康づくり推進事業の中に女性特有がん検診推進事業ということで577万円、子宮頸がん、乳がん検診の受診率を高めるために、無料での検診事業ということを実施しようということでございます。

次の14、15ページでございます。

環境美化事業ということで、757万6,000円でございます。緊急雇用の創出事業ということで、100%県からの基金を充当して行う事業でございます。不法投棄の廃棄物の撤去にかかわる賃金等が主なものでございます。

その下の環境保全事業250万円、これは危機対策でございますが、住宅用の太陽光発電システムの設置に対して助成をしていこうということで、個人住宅に対する助成制度を新たに設けていこうというものでございます。

商工費の観光振興費でございます。国民文化祭事務雇い上げ賃金41万円ということでございます。これは先ほどの緊急雇用創出事業の2つ目の事業ということで、国文祭にかかわります臨時職員の雇い上げ賃金でございます。それから、1つ飛びまして、中段に19 - 81プレミアム商品券発行事業補助金ということで3,400万円、その下が伊豆魅力プロジェクト推進事業費補助金ということで、これについては市長のほうからも話がございましたが、スポーツ施設等を核とした、いわゆる産・学・官の連携したプロジェクトの立ち上げ、これに助成する事業ということで368万円でございます。

観光施設の管理費ということでございます。修善寺の自然公園管理事業620万円ということで、匠の村の9号棟の屋根のふきかえ工事でございます。天城ふるさと広場の管理事業としまして1億1,000万円、天城ドームの人工芝の改修工事費でございます。その他、観光施設管理事業としまして、天城にございます湯道の復元工事、次のページになりますが、これに550万円。

土木費関係でございます。市道整備事業2億2,000万円ということで、これは市道の出会い橋線改良工事ということで、橋の2つをかけかえようと。老朽化した橋のかけかえ工事、2橋分の事業費でございます。

小学校費、小学校管理費ということで、小学校一般事務事業600万円、教育用具購入費でございます。これは小学校に情報機器、デジタル対応のビデオの導入事業ということで、後ほど中学校についても項目として出てまいります。小学校、中学校合わせて30台のテレビを設置しようというものでございます。それから、学校再編事業ということで、6,561万円でございます。土肥小学校、南小学校の統合に伴います土肥小学校の改修整備事業等でございます。

18、19ページ、中学校一般事務事業としまして、先ほどの教育用器具購入費150万円でございます。

教育費の保健体育費の体育施設費でございます。修善寺の体育館トイレの改修工事、これが661万円、丸山スポーツ公園整備、これが4,642万円、狩野ドームのテラス等の改修工事、これが1,538万円、白岩グラウンド防球ネット増設工事667万円。

以上でございます。

今回、選挙等で人件費の補正が出てまいりますので、20、21ページと給与費明細書などを

つけてございます。よろしくご審議をいただきたいと思います。

議長（飯田宣夫君） 以上で説明は終わりました。

これより質疑を行います。

質疑はありませんか。

12番、森議員。

12番（森 良雄君） 12番、森良雄です。

歳入歳出6億円を超える補正予算が組まれます。そのうち、約1割、6,969万円が繰越金だということですね。全額、国庫支出金、県支出金で賄われる事業かなと思うと、どうもそれぞれの事業の1割ぐらいは、やはり繰越金で賄われているのかなというふうに見えます。まず、それを確認したい。よろしいですか。それぞれの事業が全額、国の支出金や県の支出金ではないんですねということを確認したい。繰越金も使われているんだと。

それと、観光を重点的にやったというお話なんですけれども、ほかにいろいろ目につく問題点がたくさんあるわけですよ、私たちのまちには。せっかく国から6億円ももらえるのに、もっと市民生活に直結するようなことがなぜできないのかと。そういうことを検討したのかどうか。例えば、私、この間の一般質問でやった、これは私の目の前だけれども、瓜生野用水のいわゆる補修をやってほしいというようなことを言っているわけだけれども、あの後また車が落ちこちているんですよ、あそこね。1カ所、非常に危険なところがある。そういうのも検討しましたか。危険なんですよ、本当に。建設部長に言ったけれども、あれそのうち人、落ちますよ。落ちているんだけれども、みんな恥ずかしくて言っていないだけね。そういう危険な場所がある。そういうことを検討したのか。観光だ何だ、観光だ、それからスポーツ・グリーン・ツーリズムなんていうお話のようなんですけれども。

今、2つ目だね。2つ目言った。今度3つ目。

例えば、私、毎日のようにジョギングをやっているんだけれども、牧之郷の牧之郷樋管の上なんていうのは舗装しないんですね。あそこ結構交通量あるんですよ。この出会い橋、どのぐらいの交通量あるのか知りませんが、ああいうところ、たかだか100メートル未満のところ、なぜ舗装しないのか。6億円もあるんだったらば、舗装なんか、すぐできるんじゃないですかね。お年寄りも散歩しているし、子供たちは通学に使っているし、通勤に使っている人もいらっしゃる。そういうところを何で舗装しないのか、そういうのを検討したかどうか、ひとつそれもお聞きしたいですよ。

それから、市道整備事業に2億2,000万円使われるようですが、ここの交通量はどのぐらいあるのか。前回説明があったようなんですけれども、あれは記録に残らない説明ですので、この席でぜひ説明してください。交通量どのぐらいあるのか。出会い橋の交通量。

市道だということを建設部長おっしゃっていたけれども、菊地市長がいないときだけれども、市道再編のときにね。ただ、私の言ったところの市道なんていうのは、あれは里道だなんて言われて、市道から外されちゃっていた。土砂崩れでいまだに通行不能。その下の道路

が土砂崩れが二、三日前の雨であったもので、私は遠回りしなきゃ自分のお墓へ行けないというような状況になっている。そういうね、一方では里道だと言って市道がなくなっている。ところが、この出会い橋は歩行者用の橋でしょう。通学路でもあるというような説明もあったようですけれども、危険だ危険だと。いつつくたって、平成4年ですか、につくられた橋が危険だ危険だとおっしゃっているようですけれども、言葉だけで危険だ危険だと言って、じゃ通行どめにもなっていないわけでしょう。教育長に聞きたいですよ。子供も通学路に使っていると、たしか建設部長の話では言っていたわけですから、危険な橋を通行どめにもしないで通学路に使っていていいんですか、教育長。その辺をお聞きしたいですよ。

それと、今回のいわゆる観光重点、それはいいんですよ、観光重点でいいんですけども、本当に観光重点になっていますか、市長。

ただ、これ、今の出会い橋は、この間のときもちょっと言ったけれども、アーチ式の橋、一般的にアーチ式の橋というのは美しいと言われているんですよ。今度つくろうとしているのは、よく説明ないからわからないけれども、想像で言いますけれども、この説明書の内容からいけば、鋼製の単純なけた橋だ。そうでしょう、建設部長。

いいですよ、2億円もかけるんだからね、金メッキでもやって、観光に売り出すと。「金メッキで1億円だ」ぐらいのね。いや、そういう奇抜なアイデアでもって新しい橋をつくろうというんだったらいいですけれども、観光だ観光だと言いながら、今ある一般的に美しいと言われるアーチ式の橋を壊して、それは木製ですね。少なくとも旧湯ヶ島町は、そういう木製のアーチ式の橋で観光のための橋をつくったわけです。そう思いますよ、間違いだったら指摘してください。

それを単なる鋼製のけた橋、できればどういうけた橋なのかね。けた橋だってアイビームを走らせるけた橋もあるだろうし、箱型のけた橋もあるだろう。2億円もかけるんだから、亜鉛メッキ施して腐食に強い橋をつくるとかね。いや、2億円というのは、ちょっとした橋にしてはちょっと高過ぎるんじゃないかなと。だから、これ自動車道路でもないでしょう。やはりつくるのは歩行用の橋、幅は今の橋と同じぐらいの橋をつくるんじゃないかなと思うんですけれども、どういう設計をしているのか。2億2,000万円という金額が出ているんですから、少なくとも概略の橋の規模はわかっているはずですね。橋の構造もわかっているはずですよ。ぜひそれを教えてくださいよ、どういう橋をつくろうとしているのかね。私はこの橋一つとっても、少なくとも観光にとってはマイナスの橋をつくるんだなというふうに指摘しておきたいよね。できたら市長、教えてくださいよ、これね。

もう一つ、同じような観光のマイナスなのが虹の郷、あれは何ですか、あれ。本当に観光施設としての考え方があるのかと。ガルバ何とかがっていう処理の屋根をつくると言っていますね。ガルバリウム、ガルバというのは溶融亜鉛メッキのことだと思うんだよね。何のことはないんじゃないですか、これトタン屋根にすることじゃないですか。これトタン屋根にして観光客にアピールできるんですか。つくったときの見てくれは確かにいいです。多

分、議員さんの中でもこのトタン屋根の家がありますから、民家としてトタン屋根は、その軽量性、耐久性、考えて否定はしません。しかし、これは観光施設なんですよ、ここは。本当に観光をやる意味があるのかなのかということに僕は指摘しておきたい。できれば市長と観光経済部長ね、何ですか、これ。

また瓜生野の話になりますけれども、私のあそこの瓜生野のところにわら屋根があったんですよ。やっぱり建設部長ね、あそこへ落っこちた人が、用水路から落っこちた人が脱出しようとして、脱出に失敗してわら屋根の家に突っ込んだもので、わら屋根が取り壊してなくなったんです。私が瓜生野へ来たときにもうぼろぼろの家だったけれども、だから30年以上たつ、ぼろぼろでも30年ぐらい使えたわけですね。しかし、ぼろぼろで人が住まなくなっても、観光客らしい人はわら屋根があると写真を撮っていくんですよ。だから、僕は、わら屋根だから、この虹の郷の建物は価値があるんだと思うんですよ。だって、わら屋根の写真、見てください。どこ行ったって、補修なんか、ほとんどできないんですよ。それは認めます。しかし、補修できなくて、もうしょうがなくなっても、それはわら屋根の民家として、観光資源として価値があるんですよ。それで、どうしても僕はね、考える。トタン屋根の屋根つけるんだったら、今のまま残しなさい、そういう考えはありませんかということに市長と観光経済部長にお聞きしたい。

それから、次に聞きたいのは環境美化事業、僕はこういうのはお金幾ら使ってもいいと思うんですよ。ここで思い切って何千万か投入して、人を大量に投入して、一遍に伊豆市全部きれいにしちゃおうと。あれ、市長ね、ごみいっぱい出てくるんですよ。私のところの話ばかりで恐縮ですけども、やっぱり大久保だって遠くから、あそこへやっぱりごみ捨てていく人いっぱいいるんですよ。要するにまだまだ隠れたところ、いっぱいあるんです。山の中へ穴を掘って埋めていっちゃう人もいるわけです。雨が降れば顔を出してくると、そういう。だから、思い切ってこういうところへ資金を投入して、5,000万円ぐらい投入すれば、伊豆市、それこそ再生するんじゃないですかね、きれいに。そういう思い切った環境美化対策が打てないのかどうか。

それから、観光商品券、例えば出会い橋の人を2,000人程度の増員と言いましたね。お客さんをふやしたいと。それじゃ、2億2,000万円で2,000人アップしたいんだったら、観光商品券ではどのぐらいのアップを考えているのか、ぜひ市長にも聞きたいし、観光経済部長にもお聞きしたいですよ。それと、「二匹目のドジョウ」とよく言われますけれども、元気もりもり森良雄じゃなくて商品券ね、商品券は使い勝手がいいから確かに売れた。それで、市内の当然経済効果もあったでしょう。それは認めます。ただ、次のこの観光商品券ね、これがどのぐらいの集客力、いわゆる入り込み客のアップを考えているのか、ぜひ市長と観光経済部長にお聞きしたいんですよ。

これ場合によっては、ただ金使っただけで、全然経済効果が出なかったということだってあり得るんです。だってそうでしょう、これだけで、この3,400万円、投入する金額は3,400

万円か知りませんが、実質総額は3億円を超えるわけでしょう。3億円を超えて、それが丸々増加するのか。ひょっとするとですよ、お客さんは全然ふえないで、これだけ使われたという結果だってあり得るんですよ。僕はそのおそれのほうが大きいと思う。いわゆる通常いらしたお客さんがこれを使っていくと。結果的には、いわゆる入り込み客は全然ふえなかった。恐らく人口減少と同じように観光客も減少していく趨勢の中では、これを使って、いわゆるお客さんの減少を食いとめたいということもありますけれども、ぜひね、それじゃだめなんだよと、僕は議員として言うておきたい。ぜひね、その辺の決意を聞きたいですよ。ということは、やはり基本的には市民のために使ってくれということをお願いしたいもので、これだけ効果があるから使わせてくれということをお願いしたい。

議長（飯田宣夫君） 質問事項がたくさんありましたので、質問は大きく分けて10項目でしたよね。じゃ、一つ一つやっていきます。

まず、1番目の繰越金について。

〔「まとめて答えてもいいですし」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） まとめてやると、また繰り返し繰り返しになりますので。

市長（菊地 豊君） わかりました。

じゃ、繰越金については、当然含まれております。

議長（飯田宣夫君） 2番目の市民生活に直結したということの事業は云々ということについて。

市長（菊地 豊君） 市民生活にまず必要な事業があることはそのとおりでございます。ただ今回は、市民生活に必要な事業は着々と恒常業務の中で進め、今回の予算編成については、産業振興に寄与するものと、こうさせていただきました。

議長（飯田宣夫君） 次に、牧之郷の舗装云々ということについて。

市長。

市長（菊地 豊君） したがいまして、当初そのような基本的な考え方をいたしましたので、牧之郷の舗装については今回の予算の中で検討はしたことはございません。

議長（飯田宣夫君） 次に、出合い橋の交通量について。

建設部長。

建設部長（小川正實君） 交通量といいますか、この出合い橋を使っている小学生が24人、中学生が15人、高校生が15人という人数を把握しております。

それから、西平から宿へのバス停利用者ということで、これが一般の方が相当ございます。ただし、この人数というものはちょっと把握しておりませんが、バス停への近道ということです。西平区を運行するバスが1日10本、宿区を運行する路線バスについては、これは下田と河津等の関係がございまして1日26本運行しております。こういうことで、市道として地域の方々に多く利用されているというふうに認識しております。

議長（飯田宣夫君） 次に、教育長。

教育長（遠藤浩三郎君） 子供の人数については、今お話しあったとおりですが、安全な橋になっていないと、大変心配なことは事実であろうというふうに思っています。

議長（飯田宣夫君） 次に、観光重点について、この橋の内容につきましては。

市長。

市長（菊地 豊君） 私ども、金メッキにするとか、そういった奇抜な考え方は全く持っておりませんで、湯ヶ島地区らしい、湯ヶ島温泉らしい、渓谷に合ったような橋、それから橋を使った散策路を整備したい、総合的に整備をしたい。私が考えておりますその一番近いイメージは、牧之郷幼稚園のこちらにございます桜橋のイメージで、しっかりした土台に板で化粧をします。それから、あそこの環境からいってアーチまで木でつくる必要はないだろうと、周辺環境の中で、非常に単純で、かつ素朴な木材化粧による橋が適当であろうと考えているところでございます。

したがって、橋のかけかえ、それから湯道の整備、プラス周辺の散策路に魅力アップのための、そこの各旅館の皆さん及びその他の商店の皆さんの努力を合わせて、全体として集客増を目指したいと、こういうことでございます。

議長（飯田宣夫君） 次に、虹の郷について、市長と観光経済部長。

市長（菊地 豊君） 虹の郷のカヤぶきについては、前半部分はまさにそのとおりだと思います。できるものであれば、カヤぶきは魅力であるので残したい。ただ、これは先ほどの出会い橋と似たところがあるんですが、環境が物すごく湿度が高くて、維持しようと思うと相当な維持費がかかります。これ、実は北ドイツでもカヤぶきがかなり高額になって、非常に問題があるんですが、先ほどの出会い橋もオランダのモデルを参考にしたようですが、オランダとか北ヨーロッパというのは物すごく湿度が低いんですね。そこでもカヤぶきの維持に大変苦労している。虹の郷のあの湿度が高い林の中でカヤぶきを維持することの費用対効果を考えた場合には、あの場所においては、今回のやり方で屋根を変えたほうが費用対効果として合うだろうと。その他の選択肢として場所を変えてしまうこともあるんですが、それは余り効果からいって考えにくいのではないかと、こう判断をした次第でございます。

議長（飯田宣夫君） 観光経済部長。

観光経済部長（鈴木誠之助君） 市長が申し上げたとおりでございまして、9号棟につきましても、10年前に一部手直しをいたしました。その中で、トタン張りというお話ですが、ガルバリウム鋼板、ご存じのとおり、既に3棟を施工してございまして、景観に合う形状かと考えております。その他につきましては、なるべくカヤぶきを存続したいとは考えておりますが、何といたっても草が生えたりしておるものですから、修景を考えていきたいと思っております。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 次に、環境美化の事業の推進について。

市長。

市長（菊地 豊君） 今回、環境美化に5,000万円程度を充当するという事は検討はいたしませんでした。私は、山の保全というのは、それは不法投棄のごみ回収であれ、あるいはシカの被害対策であれ、これはむしろ国策ではないかと、こう考えているわけでございます。健康な山を守るということは、伊豆市民だけではなく、県の、及び国の利益だろうと。したがって、新たな知事になり、また今、国政選挙を目前にしている中で、私は、これは今回の整備で終わるわけでは、不法投棄の回収で終わるわけではなくて、改めて新しい県、新しい国に対して、県の施策、国の施策としてやっていただきたい。その中で、もちろん地元は努力します、というようなことを申し上げたいと思ひまして、まず今回はこの規模で事業をさせていただきたいと、このように考えております。

議長（飯田宣夫君） 次に、観光商品券につきましてお願いします。

市長。

市長（菊地 豊君） 何人の効果をとということでございますが、3億円分の例えば1人当たり原価2万円で計算すれば人数は出るんですが、今回は3億円を外で売ってくるわけですから、その買った人たちは伊豆市内でしか使えません。もちろん旅館だけではなくて、それがお土産物であろうと、マッサージであろうと、何であろうと。だけれども、伊豆市内でしか使えないわけですから、買った方は必ず伊豆市内で消費をされる。ただ、そこは確かに議員ご指摘のとおり、もともと来る予定だった人が10%得するだけではないかということにならないように、そこは当事者である観光業界にしっかりやっていただきたい。

ただ、ただですね、この連休以降、いろいろな会議で東海岸の熱海市長、伊東市長、東伊豆町長さんとお話しするわけですが、全く始まって以来の最悪時期でございます。私も、このところ、修善寺温泉、土肥温泉、湯ヶ島温泉の皆さんとも話をしましてまいりましたけれども、私と同世代のおかみさんが、お嫁に来てから初めてですと、こんなに厳しいことはありませんと。私は、商品券とか定額給付金というのは、政策として、決して正直申し上げて正攻法ではないと思います。ないと思うけれども、これだけの危機の中で、あらゆる手をやっておきたい。そして、その中で、これは2月いっぱいでございますけれども、その中で先ほどのように湯ヶ島温泉の環境整備、ちゃんと一番いい環境の中で散策していただく、そういった環境をつくることのような長期的な施策をやらなければいけないんだけれども、この半年間はまずそんなことを言っていられない。あらゆる手を尽くしていきたい。そのようなことの中で、この観光商品券というものを考えさせていただいたわけでございます。決してこれが正攻法であって、100%正しい政策だとは思いませんけれども、この状況の特性にかんがみ、やらせていただきたいということをお願いを申し上げます。

議長（飯田宣夫君） それでは、再質疑はありますか。

森議員。

12番（森 良雄君） 再質疑は2つに絞りますけれども、1つはいわゆるプレミアム商品券ですけれども、やはり、どのくらいふやしたいということを打ち出すあれはないんですか。

今の市長の話の話を聞いていると、結果的に観光客が半分に減っても、プレミアム商品券を使ったから半分で抑えられたと。3億円使っても、やっぱり半分に減ったと。2月までにお使いになるということですから、現状のお客を、宿泊客を2月までに10万人だと想定したら、さらにこれを5万人アップするためにこの3億円を使うんだとか、そういう数字は出さないんですか。それじゃ、やっぱり結果的に最終的に、はい、お金を使いましたで済んでしまうんじゃないかと思しますので、その辺ぜひ、もう一度ひとつお聞きしたい。

それから、出会い橋の橋の構造についてなんですけれども、市長のお話ですと、どうも太鼓型の橋なのかなというような感じも受けるんですけれども、全然基本構想は決まっていらないんですか。2億2,000万円という金額が出ているんですから、漫画絵ぐらいはできているんだと思うんですけれども、その辺いかがでしょうか。

それから、はっきり言って、僕は何でここへこだわるかという、やはり観光施設なんだろう、これ、この橋ね。下から見たことはありますか。上から見て、横から見て格好よくたって、下から見ると橋というのは余り格好よくないんですよ。その辺検討したかどうかもお聞きしたい。

以上。

議長（飯田宣夫君） 市長、答弁願います。

市長（菊地 豊君） 1つ目の目標でございますが、これ先ほど申し上げましたとおり、3億円の経済効果であれば、例えば1人当たり単価2万円とすれば1万5,000人とか、数字は出るんですが、今申し上げていることはそういうことではなくて、10%、20%、お客さんが下がったって、その方々が使えば確かに3億円にはなるだろう、だから効果がないじゃないか、まさに数字はそのとおりなんです、どんどん下がって行って、去年のレベルだって確保できるか、それは多分難しいだろうと思われるくらい、きついわけですね。

その中で、とにかく昨年並み、あるいはできればプラスしたいということは、これは我々は目標、数字を掲げることは簡単ですけれども、そこで今、本当に厳しい観光業界の当事者に頑張っていたかなければ、彼らに私が数字目標を与えてもしょうがないんです。彼らが必死でそれを使って生きていかなければいけないわけです。これは銀行の皆さんにも、幹部の皆さんにもご説明をいたしましたけれども、銀行のほうにも頑張ってもらわなければ、もう本当に厳しい数字になっているわけですから、今ここで3億円ですから1万5,000人ですと、私が行政から目標を言うことは、申し上げることは、示すことは余り意味がないのではないかと、こう考えているわけで、何としても3億円全部売って、去年並み、去年以上のお客さんを集めてくれと申し上げることが、ある意味、私の正しい説明なのではないかと、こう考えているわけです。

2点目の出会い橋の構造につきましては、確かに総事業費2億2,000万円ですが、解体等に費用がかかりますので、1つの橋を新たにつける費用は4,000万円程度でございます。ですから、余り豪華なものを建てるわけではない。ただ、下から見たことがあるかということ

で、そこまで私自身は検討はしていませんけれども、全体の構造の中で環境に合ったものをつくる、もちろんこれは市としてやはり観光施設でございますので、実態はですね、環境を壊さないようなものをつくってまいりたいと。

3案ありますけれども、これは建設部長のほうから説明をさせます。

議長（飯田宣夫君） 建設部長。

建設部長（小川正實君） 3案ということでございますけれども、3案検討してみました。それから、先ほど市長から構造の問題も申されましたけれども、私どもが今考えているのは、予算措置の段階で何をモデルにしたかというところでございます。ですから、決定したということじゃなくて、予算を算出するに当たりまして、鋼単純鈹げた橋というH型鋼を利用しました鉄橋をもとに予算を算出しております。

それで、その単純鈹げた橋につきましては、なぜかといいますと、一番経済性といいますか安価、事業費が安く抑えられます。5億1,200万円のうち、私どももこれで3億円も4億円もかけて橋をつくらうということじゃなくて、なるだけ丈夫で耐久性のある、しかも経済性のあるものに抑えようということで、予算措置の想定として単純鈹げた橋を考えております。

それから、トラス橋というのもございます。これにつきましては、やはり少し高くなります。大体が少し高くなりまして、ただ、これは相当橋の支間ですか、その間が相当長いものが向いているということでございます。それから、部材が異常に多いということがございまして、施工が煩雑になっていきます。

それから、つり橋なんですけれども、これも皆さん観光地ですので、非常に多くの方が想定されておると思いますが、これは非常に維持管理の面でも相当お金がかかります。建設費にもお金がかかります。それから、引っ張りますので、ここの出会い橋の場合には2橋が真ん中で交差するようになるわけです。ワイヤーで引っ張った場合に、このワイヤーが交差してしまいます。逆に1本で西平から宿のほうへ渡そうとなりますと、これは物すごく相当高価な、高額なつり橋になると思います。

一応、決定というわけにはいきませんが、予算措置する前提といたしまして、鋼単純鈹げた橋というものを想定しております。

以上です。

議長（飯田宣夫君） よろしいですか。

森議員。

12番（森 良雄君） これで終わりますけれども、今の経済情勢が大変だということは、市長さんね、昨年の暮れの議会から言っているわけですよ。たしか百年に一度の不況が到来したということは12月議会じゃありませんでしたか、おっしゃったのは。それで、6月議会では、お客さんは1割アップしているとまで言っているんですよ、ついこの間ですよ、2カ月前。それで、臨時議会で、もうどのくらい来るかわからない。それじゃ、ちょっとね、

やはりこれだけお金を投入するんですから、目標をばあんと決めて。

この間も私言ったですけれども、やはり市長さんが1割アップだと言ったら、やっぱり1割お客さんを連れてこなきゃだめですよ。それがトップセールスというんですよ。少なくとも民間のトップセールスというのはそういうものです。1億円売り上げを上げるんだといたら、1億円売り上げを上げるのがトップセールスマン。民間だったら社長がやるかもしれませんよ。有能な営業マンがやるかもしれません。それを確保しなかったら、その会社はつぶれるんです、民間だったら。ぜひやはり数値目標を立てて、プレミアム商品券に3億円使うんだったら、これだけのお客をやっぱり伊豆市の観光業界は集めなさいというようなことをぜひやってもらいたいですね。やる気があるかどうか、まずそれをひとつお聞きしたい。

それから、これは答えなくてもいいですけれども、大体もうこの今度の6億円の使い方を見ていると、もうどこの業者がやるのかなんていうのは大体見当ついちゃうんだね、これ。やはり使うほうが先に決められているんじゃないかと思うんですよ。そこはそれ答え求めてもしょうがないからね、どうせそんなことないと思うんですけども。

あとは、また委員会等でお聞きしたいと思いますので、まず、それだけ市長さんにお聞きします。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） ここ1年来の経済の状況は、当市の予期した状況を全く超えて厳しい状況がございます。去年の今ごろは、たしか財務大臣は日本はくしゃみの程度だと言っていたところが、9月以降大変厳しい状況になり、それは私も認識が甘くて、去年の12月にはたしか、製造業は厳しいけれども、サービス業の落ち方は緩いと、こう申し上げました、恥ずかしながら。データを見ますと1月から激減しております。そのときに、3月にはことは国民文化祭があるので、それも合わせて10%伸ばしたいと、こう申し上げました。ところが、それをはるかに超えて厳しい状況で、連休以降さらに落ち込みが厳しく、6月には改めて状況を変え、私の先見性のなさもございますけれども、当初よりもはるかに厳しい状況でございます。

そこで、昨年並みとかプラス10%ということをお口で言うのは簡単ですけれども、そんなどこまでできるかわからないことよりも、とにかく3億円売り上げて、1万人でも2万人でもお客様に来てもらえるように、第一当事者の観光事業者の皆さん当たり前のこととして、我々も総力を上げて頑張っていきたい。なぜならば、観光業によって外からお金が入る。そして、そこでは我々の魚とか野菜を買ってもらえるということを考えて、総合産業として、宿泊だけではなしに、伊豆市全体の当面の食っていく道のために頑張っていきたいと、このようなことで、今数字をあえて申し上げても余り意味がないのではないかと、こう考えているわけでございます。

答えなくてよろしいということでしたけれども、今、業者が決まっているわけがありませ

ん。議員はいろんなところで、官製談合、官製談合と公然と公人でありながら言っておられますけれども、私どもの制度からして官製談合ができる可能性が、物理的可能性はゼロです。官製談合が起こる可能性はゼロです。起こさせることができません、市長であれ、だれであれ。そういうできないことを軽々に公人である議員に言っていただきたくない。それを信じる市民もおられるんです。それだけは断じて、これ以降お使いにならないでいただきたいと、こう思っております。

議長（飯田宣夫君） 他に質疑はありますでしょうか。

5番、松本議員。

5番（松本 覺君） 5番、松本。

2点伺います。

特に、今回の補正の主なものは例の交付金が主で、それが14事業ですか、にわたって提案されているわけですが、そのタイムスケジュールというんですかね、いつ始まっていつ終わりだという、要するに国のほうに計画書をいつ出さなきゃ、この事業がもうやれないという、そのタイムスケジュールをちょっとお聞かせいただきたいと。というのは、我々議員の中でも、いつまでにやらないともうだめだ、もらえないなんていうんで、いや、そんなことはないというふうに錯綜していますよね。こういう公の席でお願いします。過去にわたっても、いつ来て、いつこの事業に着手して、こういう手順を経て案をつくったというような、簡単でいいです。これからのことはいつまでだというのをお願いします。

2点目は、大変市長さんには申しわけないんですけれども、例の出会い橋の件ですが、17年前に町のときに計画されて実施されたわけですが、一説には、50年、いや100年もつというような話であれがつけられたと。常識で考えると、ちょっと木が100年というのはどうかと思うんですけれども、大変、実際にやると短いですね。今、17年目ですから、問題が起こって15年目だということになりますと、相当、当初の話よりも半分以下の寿命しかなかったと。それを今の市長さんに聞くのは酷ですけれども、あえて、これ継続事業という意味合いが少しありますので、今あるのが壊れたから次の新しい橋をかけかえなきゃならないということですので、あえて伺います。そうした負の遺産を引き継いだ、当時の見込み違いというんですか、そして現在に至っているという、その間の市長さんの個人的な見解で結構です。感想を伺いたいと思います。個人的には1年たった菊地市長に聞くのは酷だと思いますけれども、やはりそれは継続した負の遺産ということで伺いたい。

2点お願いします。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） 1つ目は後ほど総務部長から答えさせます。

出会い橋の件ですが、確かにごもつともです。ただ、この出会い橋に限らず、ほかのあらゆる事業で、確かにいろんなことの水道料金であれ何であれ、昔は昔はと言われるんですが、

現在から始めさせていただきたいと。合併したこともあるし、私は市長になってまだ1年だし、今の状況の中から最低見解を見出すということをやらせていただけないかと、こう考えているわけです。

ただ、当時の町の、天城、湯ヶ島の町の肩を持つわけではありませんけれども、私はハンブルクというところに1年住んだことがあるからわかるけれども、向こうの本当に湿度がないところと、この高温多湿の静岡県の中でもさらに湿度の高い湯ヶ島の中での特性まで、当時はなかなか見きわめられなかったのではないかと推測する次第ですが、そういうことが今後ないように、いろんな観点から細心の注意を払って、特に大きなお金を使わせていただく事業ですので、繰り返さないようにやらせていただきます。

議長（飯田宣夫君） 総務部長。

総務部長（平田秀人君） まず、経済危機対策の臨時交付金のスケジュール的なことということでございますが、この5月に補正予算のほうが成立いたしまして、5月末に早々に第1次の計画を出しなさいということで出しております。内容的にそれについて非常に短い期間でございましたが、事業の検討をして内示をいただいているという状況でございます、基本的にこの事業、今年度消化ということで基本にしておりますので、いわゆるその事業内容によって、やはり早急に取り組まないとならないという事業もございます。スケジュール的には、やはり地方議会において早急に議決をしていただいて、これいつということがまだ来てございません。秋口早々にはこの最終的な実施計画を出せということで来まして、二、三週間程度で決定、手順ということになっております。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 再質疑ありますか。

松本議員。

5番（松本 覺君） 総務部長さんのことはわかりました。

市長さんについては、あえて一言申し上げますけれども、当時の人たちもいいかげんに考えたんじゃないと思いますよ。想定外のことが起こっている。しかも、私は当時、さらにこの湯ヶ島については住んでいたこともあったりして、経緯もちょっと耳に入ってきている。当時、オランダの北欧というのは低温で乾燥地だと。高温多湿の天城山で大丈夫かという声は実はありました。あったことは当時私は聞いております。でも、あそこの景観を壊さないように、やっぱり木のほうがいいんじゃないかという声なんかも聞いて、それで決定して現在に至っているわけですが、素人が考えても、あの木造がどれだけ50年、100年もつものかというのはかなり疑問符があった。それは事実だと思うんです。それをどちらをとるかというのは、その当時の責任者の決断だと思いますけれども、今度は逆にかなり耐久性の高い橋ができるわけですから、壊そうにも壊せないと。失敗だったなということが、逆の作用が来なきゃいいなと。もう年とっていきますから年越し苦労で、もち過ぎて困ったということがないように、実は慎重審議をぜひお願いしたいと。

壊れているというのは前の議会で聞きましたけれども、早急にこの二億何千万をかけてあれをつくりかえるということは、私自身もかなり関心を持っているところだったものですから、やはり私自身も決断がつかないというんですかね、もう少し時間を経て検討したほうがよかったんじゃないかなと正直思っておりますので、ぜひそこら辺を、間違いないと信じておりますけれども、やはり多くの方の意見や多方面にわたる専門的な知識というようなものも勘案して決定したほうがいいんじゃないかなということを添えまして、今回、これはつけ加えでありますけれども、質問を終わります。ありがとうございました。

議長（飯田宣夫君） 他に質疑はありますか。

3番、稲葉議員。

3番（稲葉紀男君） 今回の交付金の目的は、伊豆市の活性化と今日の経済危機に対する浮揚策というふうに理解しているんですけども、事業項目の内容を見ますと、伊豆市全体ということよりか、やはり地域的にも、それから項目的にも、やや偏ったという感じは否めないと思います。そしてまた、その効果が一般市民にどの程度還元されるかという見方をしましても、心配、不安を抱かざるを得ないということになります。

地区からの要望、これはもう毎年、住民の切実な要望として、日常生活に密着したものの要望として出されていると思います。しかしながら、財源不足ということで、先ほど市長は市民生活に密着したものは着々と進めていくとおっしゃいましたけれども、現状は遅々として進んでいないというのが現状ではないかと思えます。ことしも地区要望、既に提出されたと思えます。それを今後どういうふうに進めていこうかということを検討中だと思えますけれども、質問の1つ目です。この地区要望の取り扱いの窓口はどこになる予定でしょうか。そして、市の裁量で、これをどの項目をどうするかと、幾つやるかということについての決定はどのようなシステムでなされているのでしょうか。それがまず1点目。

それから、さらに決定されて工事が進んだ後の実施状況というんですか、そういうものはどういうふうにされているのかということ伺います。

そういうわけで、地区要望、本当に住民の要望であります。遅々として進んでいない。我々の区の中でも、どうせやってもだめだよと、いつになるかわからないねというような、半ばあきらめにも似たような気持ちがあるということも否めない。これは行政にとって一番避けなければならないことだと思えます。

そこでですが、安全で安心な生活というのは市民が最も求めることです。それから、特に面積の83%が森林であり、治山治水は行政の最重点課題であるというようなこと、これらについての整備をどうしますかと、どう進んでいますかということについては、過去から、あるいはここにいる議員さん、私も含めて、何度も一般質問の中で問うたこととございます。

しかしながら、現状、例えば土砂災害850カ所と、要対策箇所840カ所、1年に数カ所ずつ、全体では整備率20%というのが治山治水ということについても現状であると。

さて、私、最近、どなたも思うでしょうけれども、この異常気象による集中ゲリラ豪雨、

これで、きょうあすにも、いつ危険にさらされるかというような不安はますます増してきたというような感じでございます。さらには、通勤や通学のための交通安全対策、先ほどの出会い橋もそういうことでやると、一つの理由だと。ですから、伊豆市全体、まだまだそういう目で見れば、さらに多くの通勤者やあるいは子供たちにとっては危険箇所がたくさんある。それから、さらに街灯、防犯灯、こういうことも本当に増設は叫ばれているところです。市道の整備等も含め、住民からの切実な要望、これが今回、反映されていない。

安全で安心した生活ができる環境というのは、市長さんもいつも提唱しています。定住化促進、それから伊豆市への人口誘致という観点からも、これはそこに家を建てようということをお考えますと、まずそういうことが判断の重要なポイントになると思います。そういうことから、最も必要な基本的な条件と考えています。

以上のことから、今回、今申し上げました地区要望が含まれていないのはなぜかということ。先ほど、観光、あるいは将来の事業への投資だという話は伺いましたが、今言いました私の質疑に対しましても、もう一回、市長の考えを伺いたいと思います。それが質問の2番目です。

それから、質問の3番目ですけれども、今回の14項目の事業の決定といいますか、この項目をやるんだよという提案に至った、提案した決定のプロセス、市の中で恐らくいろんなプロセスがあって、部長会議等にも諮られて、各部長さんからの意見等々も参考にした上、最終的には市長の決定ということになるんでしょうけれども、そこらのプロセスの中で、今、私の申し上げました住民の安全・安心とか地区要望とかということがどの程度論議されたのかについて伺いたいと思います。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） まず、2つ目から回答申し上げます。

確かに議員ご指摘のとおり、伊豆市内は危険箇所が850カ所、それから地区からの要望、128の区から出ますので5個平均でも600余り、そうすると、もう1,000を越す要望が事実上あるわけでございます。これは、去年、私が市長就任以来、優先順位をつけて、できるだけ回答しなさいと申し上げているんですが、やってはいるんですけれども、この優先順位づけが、場所によっては区内でもつけられないものをどうやって我々がその優先順位をつけるんだと。先般、土肥の区長さんの区長会で、じゃ、区で順位つけてきていいかということで、ぜひお願いをしたいと。中には、もうとてもじゃないけれども、うちは順位つけられないというところもあるんですね。そんな作業をやっていると、1年じゃまだできていないんですけれども、ただ、いずれ、やはり市としてはこのように優先順位を考えて、ここはいつごろになりますということはお答え申し上げたいと思っています。

ただ、そのとおりで、住みやすいところに人が流れているのが今の現状なんですね。じゃ、

県東部でどこが住みやすいかといったら、長泉が住みやすい、裾野が住みやすい、三島の北部が住みやすいと、こうなっているわけで、最近ももう圧倒的に長泉が住みやすい。住宅ローンは全部金利を払ってくれる、学校は全然お金がかからない、全部歩いていける、学校が足りなくて、町長さんは学校建て増しばかりを考えている、中学校3年生まで医療費はただと。そんな状況の中で、物すごいブラックフォールのように人口が集まっているわけです。

そこに対して伊豆市が、危険な箇所850カ所を3倍の速度で直す、あるいは地区の要望の皆さんにおこたえすることによって、ここの人たちが、いや高校を出たけれども、僕は伊豆に残ろうと、あるいは結婚して子供をふやそうということにつながるのであれば、私は5億円で地区の要望の皆さんに相当やるということはお金では可能だと思うんです、お金では。

ただ、それを使うことによって、本当にここが活性化をして、住みやすくなるんだけど、今ここにいる人たちが。けれども、この若い人たちが、それならここに残ろうかと、ここに残る仕事があるよねということになるかということ考えたときに、やっぱり安全・安心のための事業はしっかりやりながらも、着実にやりながらも、将来、若い世代が残れるための職場をつくること、維持すること、まずは。そして、将来に向けてつくることのほうが、今はやるべきではないかと、こう考えているわけです。圧倒的に、やはり仕事がなくここに残れないという方が、若い人と話をすると多いんですね。

今回はしたがって、そのような考え方で整理をさせていただき、3番目のご質問ですが、その中の基本的な考え方で、ほとんど市長のほうからこういうことを見積もれ、こういうことを出しなさいということで、当初はもっといろんな案がございましたけれども、このように整理をさせていただきました。したがって、プロセスは、まず基本的な考え方を私が示し、各部から出してもらい、それを整理したというものでございます。

第1番目の地区の偏りですが、今回の予算だけ見ると天城地区に偏る。そこで先ほど申し上げましたとおり、土肥の南のほうではこれから、この中でも丸山スポーツ公園、約5,000万円が入っていますが、土肥南小学校の跡地の活用、それから一度は頓挫してしまいましたけれども、ふじみ荘の跡地、まずは更地にしないといけないだろうと。それでもうこれから数千万円かかっていくわけですね。それから、小規模多機能ホーム等々、土肥の南部地区ではそのような事業、これには入っていないけれども、当然やるわけです。

土肥地区では屋形海岸の海岸整備、港湾整備、それから海岸整備のほうは防潮堤だけではなく、それを軸にしてまちづくり全体をやってくれということで、まちづくり委員会をつくっていただき、県を巻き込んでやっていくわけですね。それは予算規模からいったら、恐らく10億円を超えるものになると思います。

修善寺駅前整備は去年から報告申し上げているとおり、ことしは基本設計までいくのかな。これもちょっと時間かかることですが、再来年からは17億円、恐らく周辺整備を含めると17億円を少し超えるんじゃないかと思うんですが、そのような事業費で駅の周辺整備、修善寺地区をやるわけです。

中伊豆はどうしても大規模な観光施設がないものですから、淡々と住宅整備とか農地整備とか、今、筏場新田の上のほう、県で道路をやっていただいていますけれども、このように目立った事業はございません。ただ、全体として見ると地域ごとのバランスをとって考えているつもりでございます。今回は出会い橋という特性上、あそこに1点重点、2億円をかけて、かけかえすることでお認めいただきたいと、このように考えているわけでございます。議長（飯田宣夫君） 再質疑ありますか。

稲葉議員。

3番（稲葉紀男君） 市長の言う将来に向けてのいうことは十分にわかります。

しかしながら、やはり現実に危険にさらされている人がいるということもまた重要な事実で、すごい大切なことだと思います。やはり私は、現実と将来ということのバランスをとった行政をしなければいけないというふうに思っています。ぜひ両方が万全とまでは呼べない、ベストまではいっていない、ベターとも言わない、あるいはグッドぐらいに抑えれば、それなりの中庸な案も出てくるんじゃないかと。そういうことが市民全体の活性化、利益ということの上には、絶えず必要なことではないかと思えます。

特に、今回の臨時交付金は、長期的なビジョンとか、いうことの実績に立った上での予算というよりも、やはり経済危機、あるいはこの市の全体の活性化を図るということに重点を置いて使うべきものではないかと思えます。まさに、地域要望が通常の予算ではなかなか難しいという状態ですので、このようなときに、このようなときこそ、このお金を使って、より多くの市民の要望にこたえるべきではないかと思えます。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） 実は私も市長になる前に、自分の柿木の実家の裏が台風で随分荒らされて、3メートルぐらいえぐれて、いつ落ちてくるかわからないものですから、写真を撮って区長さんを通じて出したんですが、去年自分で却下したんですけれども、危険な状態ではあるんですよ。じゃ、正直言って、おふくろも不安なんですけれども、そこを直すと、私の子供が伊豆に帰ってきて、そこで仕事ができるかという、そうならないんですね、残念ながら。伊豆市内は確かに危険な状況があります。伊豆半島全体、危険なところたくさんあるんです。それは承知しているんです。でも、それを全部安心なところで環境を整えらなったら、まさに今安全なところに引っ越すようなことを、それと似たようなことをせざるを得ない。

我々どうしても、こう言うと大変不適切かもしれないけれども、最初から伊豆半島というのは全体として非常に危険なところなんです。そこに我々のご先祖様が切り開き切り開き、お墓を守ってきたわけで、したがってそのお墓と田畑を守っている。私はここの市民の皆さんだ、当然ここに生きているわけだから、そこで直轄砂防なんかも、本当はこんな危険なところに住んでいて申しわけないんですがと言いながら、沼津の国道河川事務所長に何と

か国でお願いしたいということで、国は特段の予算で、確かに遅々としてなんだけれども、でも、ほかの市町から比べたら、特段の予算で直轄砂防をやっていただいているわけです。そこは、私は国全体のバランスを見たときに、個人的には本当にありがたいと思うほど、そこはご配慮いただいているわけで、そこを、じゃ全部今回5億円で、全部そこでやったらどうかということについては、私も逡巡はしますけれども、やはり今ここにある産業を維持しながら、少しでも若い人たちが残れるようなことにも、ぜひ使わせていただきたいと。

今ここで本当に、もうぎりぎりというところはたくさんあるわけです。そこをこれですぐにかわせるわけではないけれども、やっぱりベースをつくりながら、じゃ、もう一頑張りしよう、もうちょっとここであきらめずに頑張ろうという環境をつくることは、やはり私は大切なことなんだろうと思っています。議員のご指摘は全く反対ではなくて、よくわかるんですが、他方、今もう本当に今の事業を続けるかやめるかという選択のぎりぎりの方が多数いらっしゃる中で、その方々が横浜や東京のように、転職してここに残ればいいけれども、転職したりする方の多くは出ていってしまうわけですから、やはりここは何とか踏ん張って守っていきたいと、こう考えているわけです。

議長（飯田宣夫君） 稲葉議員。

3番（稲葉紀男君） 最後になります。

おっしゃることもよくわかりますが、くどいようですけれども、私、この予算全部を地区要望に使えと言っているわけでも決してございませんし、現実にもうこんなところに住んでいられないねと、あるいはどこかに伊豆市以外に移ろうかということが、あるいはこういう危険な地域ということで、むしろ離れていく人もいるんじゃないかというような気持ちから、伺いました。

以上で終わります。

議長（飯田宣夫君） 他に質疑は。

〔「はい」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） 鈴木議員、ちょっと申しわけないですけれども、時間がちょっとあって、休憩とりますけれども、よろしいですか。

〔「そうですか」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） すみません。

ここで、じゃ休憩をします。

11時5分まで休憩をとりたいと思います。

休憩 午前10時56分

再開 午前11時05分

議長（飯田宣夫君） それでは、休憩を閉じ会議を開きます。

質疑を続けます。

1 番、鈴木議員。

1 番（鈴木初司君） 1 番、鈴木です。

3 点ほど、お伺いいたします。

まず 1 点は、一つの総括でございますが、ここにおける我々議員がなぜここに来たかということは、市民、地域の意見を伝えるという形の中で多くの議員が来ているわけでございます。

そんな中で、私も全く先ほどの稲葉議員の言っていることがごもっともだと思って、また発言させていただくわけですけれども、この中に地域要望がないと。これは全くごもっともで、私もそれはいかがなものかと思っていることが第 1 点と、2 つ目、健康福祉部長がここにおられるので、ちょっと細かいところでございますけれども、発言も求めてお願いしたいと思うのは、ここに幼稚園とか中豆授産所、その他の地震に対する補強工事をやっていないところを再三お願いしているわけでございますが、この今回の経済危機対策というか、命を守るということの問題が入っていないと。全くおかしいと。生きいきプラザに110個の太陽光パネルを乗せるより、そちらが先だというふうに私は考える。その辺を今、幼稚、保育、小学校はこれ教育長に聞きますけれども、地震のほうの対策をされていない場所がどの程度あるか、ひとつお聞きしたい、これが 2 点目でございます。

3 つ目が橋のことでございます。これはもう十何年前やったやらない、どうなったということではなくて、私がお聞きしたいのは、ここに関係ある観光でやられる道の整備、これ550万円でございます。それと建設部でやられる工事の作業道、これが載っているわけでございまして、こちらのほう両方を聞きましたところが、同じ場所に関係あるというところで、リンクするところがあるんじゃないかという話は各課へ行って聞いてきました。ということは、観光課でこっちへ金かける、建設課でこっちへ金かけるじゃなくて、その辺を一緒にやれば相当の金額の中で圧縮できるところもあるというところを、今のここにおられる部長さん方はどこの課でも聞いて意見を取り込んでいくような形になっておるわけですから、その辺はどう考えておるか。うまく仕事をやれば、もっと安くできるではないかというところがあります。

すみません、あと 1 点ございました。

先ほどの特別の3,000万円の観光誘致、これへ3億円使って、1万円使うというところが、4月に平成21年第1回市議会の臨時会で、議案の中で市誕生5周年記念特別誘致事業補助金というので500万円使っておるわけです。その前にも、こちらから職員を派遣されている。新宿ですか、どちらかの観光のところに派遣されているということもありまして、その辺の検証をされているのか。私はここに使う3,000万円はもっと、今大変に農業、例えばワサビですとかシイタケをやられておる、私もそうなんですけれども、病気があるとか、そういうところに多少なり、こういう新しいものをつくるとか、こうしなさいとか、あと漁業もそうです。観光ばかりが、商業もそう、みんな大変なわけでございます。500万円使って、その

検証もしないで、また3,000万円もここに投入しますよじゃなくて、これは外から呼んでくるための300万円で、地域にもっと使うべきところは農業であり、農林業であり、商工業、漁業、まだまだたくさんいろんな考えがあると思います。僕はここにだけ使うことに対しては、いかがなものかと考えるわけですが、この4点についてご回答をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） 1点目と4点目はちょっと共通性がございますので、確かに地区要望は今回聞きませんでした。私は、例えば128かな、区長さんの皆さんにお集まりいただき、優先順位で1番、2番から3番ぐらいまで出していただき、そしてこれを5億円の一部を使うというようなことの作業をやった後、多分大方の案は使えないだろうなど。そのときに、逆に、何だ、これだけ集めておいてということになる危険性もたくさんある。

そして、私は、そこで、ここは市長の判断で、市長の責任で方針を決めて、自分でやったほうが時間的にも早いですが、そのほうが自分で責任をとれるし、人に、変な話ですが、あえて区長さん、128の区長さんにそういうふうなことをお願いしなくても、それはそれで一般財源の中からまた別途やろうと思えばできるわけですから、今回は先ほど、当初申し上げましたように、産業振興とそれから年度末までに終わらなければいけないという条件がありますので、その2つの中で自分の責任で組ませていただいたわけでございます。

それから、その中で観光を重視したものですから、確かに4月の臨時会で500万円お願いをして、既にやっておりますが、まだ検証には至っておりません。もともとあれは千二百年祭の修善寺の事業でございましたので、修善寺旅館組合の皆さんはやり方がわかっているからスタートも早かった。ほかの2地区の皆さんは、やはりちょっとなれていなかったこともあり、スタートがおくれたこともあり、それからその効果とか使い方もまだちょっとなれていないところがおられて、最近ようやくいろんなところでパンフレット等もできたところで、ある意味、今スタートし始めているところで、ただ、私もいろんなところへ行くたびに、これで4人で1人安くなります、今度、市もさらに10%やろうとしていますというようなことを話を上げると、そのセットで相当やっぱり食いつきはいいんですけども、まだセットでメニューとして出していないところで弱みがあるとは思っておりますが、そのような理由で5周年記念の検証はまだ至っておりません。

2点目の耐震については、耐震必要箇所は後ほど教育委員会のほうから説明していただきますけれども、例えばと議員が例示されました幼稚園や中豆授産所ですが、ある1カ所の幼稚園はそこはやらずに、別のところと併合する形で、より使い勝手がいい形で耐震も解決をしたいと思っておりますし、中豆授産所のほうも、そこを変えるよりも、もうちょっといいところに移っていただくことで今考えているものですから、必ずしも耐震工事をしないから耐震を考えていないというわけではございません。

ただ、その数とそれから出会い橋のコストカットについては、担当の教育委員会及び部長のほうから説明をさせます。

議長（飯田宣夫君） 健康福祉部長。

健康福祉部長（鈴木俊博君） 2点目にご質問のございました健康福祉部が所管する施設での耐震化がされていない施設というご質問でございますが、1つはこの4月から幼稚園の業務、当部で委託を受けている中では牧之郷幼稚園、ここは軽量鉄骨ということの中で耐震化に非常に疑問があります。それと、もう一つは、今市長が答弁しましたとおり、中豆授産所、ここもちょっと詳しくはないんですが、やはり構造的に軟弱なものであるかと思っております。ここが耐震化がされていないということの現実がございます。

議長（飯田宣夫君） 次に、教育長。

教育長（遠藤浩三郎君） 小中学校の耐震の問題ですけれども、土肥小のように老朽化等進んでいる部分もありますが、本校舎のほうは耐震は済んでおります。あと、中伊豆中の技術科棟天城中の技術科棟が残っているというのが現状でございます。

議長（飯田宣夫君） 次に、観光経済部長。

観光経済部長（鈴木誠之助君） 550万円の湯道の整備でございます。天城温泉地区につきまして、連携をとった整備という中で、出会い橋を含めた湯道の整備を考えております。その中で、今回上げたものは、出会い橋の出会い橋公園からたつた旅館さんのほうに、瑞祥橋のほうに行く歩道でございますが、過去ありました道をもう少し整備して、巡回できるような形で整備したいということでございます。

これに伴いまして、この地区にあります湯道の整備を行いまして、連携をとった時間的な周遊を考えていきたい。それから、少し滞在型のお客様が多々ございますので、時間の余ったときにこの湯道を通して狩野川の渓流を見ていただく、それから文学的な旅館さんありますので、それらを連携して、どこの旅館にも立ち寄れるような形で湯道整備を同時に考えていきたいというふうに考えております。

議長（飯田宣夫君） 質問は、橋との連携をどう考えているか。

1番（鈴木初司君） 作業道に金をかける、持っていくところの道路という意味。工事するところの道路とリンクするから、そこでという。

〔「工事用の道路ですか」と言う人あり〕

1番（鈴木初司君） そういうことです。工事用作業道。安くできるだろうって。

〔「リンクはしない」と言う人あり〕

1番（鈴木初司君） 全く別。

〔「はい、別です」と言う人あり〕

1番（鈴木初司君） じゃ、そう言ってもらえればいいんだけど、一部聞いてきたので、そうだとするんで。

議長（飯田宣夫君） 観光経済部長。

観光経済部長（鈴木誠之助君） 作業道という形で、この道がということでございますが、少し竹やぶから下のほうにくぐりますので、少し工事道路としては使えない道路でございます。今、現況の道路を使って出会い橋のかけかえは使えるのではないかなと思います。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 再質疑ありますか。

鈴木議員。

1番（鈴木初司君） 先ほど出ました教育長のお話の中にあつた技術科棟、これのほうの今回この地域活性経済対策特別金の中に、項目に、この間、この2案は出してくれというような請求を教育委員会からされているのかどうか、ちょっとその辺はお伺いしたいです。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

教育委員会事務局長。

教育委員会事務局長（間野孝一君） ただいまの技術科棟の件でございますけれども、今回の交付金対象事業として考えましたが、通常の中で、耐震、安全・安心な学校づくりと、その中で補助の予算化をされておりますので、それ以外といいますか、今回そういう現在の既成の補助制度のあるもの以外のところに活用というように考えまして、現在、中伊豆の技術科棟の実施設計等の委託業務でございますけれども、これは今年度当初予算に計上いたしまして、現在発注したところでございますので、考え方としましては、現制度にあるものはちょっと外したというような考え方で進めさせていただきました。よろしいでしょうか。

〔発言する人あり〕

教育委員会事務局長（間野孝一君） はい、上げたですけれども、そういう考え方で、一番最初は考えましたけれども、それから外したという考え方、要望になったと。現状の補助制度があるものはそれを使っていきましょうということで、それ以外のものについての考え方ということで、交付金のほうの事業を精査していったということでございます。

議長（飯田宣夫君） 鈴木議員。

1番（鈴木初司君） 最後になりますけれども、先ほどの誘客に使うプレミアム商品券で、検証はしていないと。あと、先ほど、市長のほうからなかったんで、職員を1名派遣をされているんですね、どちらかへ。そういうところからの今回、どういう状況で、今どういうことなんだというようなことの中の説明等が、せっかく派遣されているのであるんだから、観光として前はあれだけ気合いが入った話をされて、そこに金をつぎ込むんだ、人を入れるんだ、そこから誘客するんだというような発言があつて、いや今回、最悪、悪いんだよと、また入れなきゃだめだと。何か意味がよくわからないというか、説明をもっときちっとされて、その辺はどうなんだということを言った後にそういうお金をやるということをしてもらわないと、せっかく当初、派遣をされて、そこでいろいろな観光とかこちらをアピールできると、そちらからもお客を引っ張ってこれると、そこともタイアップできるんだという話をされておるわけでございますから、今回その辺の話というのは出てこないんです。その辺で

うなっていますか、ちょっとお答えください。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） 4月から研修生としてJTBに1年、若い職員を派遣しております。これは派遣のときに申し上げましたとおり、そのまま観光に精通した者を送っているわけではなくて、今まで観光を一切やったことのない者を送っているんですね。ですから、今回はJTBという観光事業主体に送っていますから、当然、後でのリターンは期待はしていますが、観光をやりながら民間企業の考え方、物の考え方とか仕事の仕方を学ぶということで、私も昔、商社へ行ったときに、何も商社を学ぶわけではなくて、そこでの公務員でない物の考え方を研修するということでしたので、後でのリターンは期待していますけれども、現時点でそのような観光に対するアドバイス機能、大きな期待しているわけでもないし、そこまでは多分できないだろうと。電話連絡はとっていますけれども、今、彼にそこまで求めるのは少し酷だろうし、仮に聞いたとしても、いわゆる観光のプロとしてのアドバイスが返ってくるとは思えない。実際にプロであるJTBや近ツーやクラブツーリストの皆さんとはそれ以外のところで話をさせていただいていますので、そのようにご理解をいただければ。

議長（飯田宣夫君） そのほか、質疑。

20番、木村議員。

20番（木村建一君） 木村です。

まず最初に、経済危機対策交付金の概要というのが出されたんですけども、当然それに基づいてやられていると思うんですね。ここには、地球温暖化対策、少子高齢化社会への対応、安全・安心の実現、その他将来に向けた地域の実情に応じるきめ細かな事業を積極的に実施できるように、この今回の主なものですね、地域活性化・経済危機対策臨時交付金を支給するんだと、こういうことですよ。

その中で、今、市長が言われている観光も当然その中に入ります、いろんなメニューを読みますとね。1つ目にお尋ねしたいのは、いわゆるこの表題にある地域活性化と経済危機対策だということですよ、主眼は。そうしたときに、その今大いに論議している観光も私は別に否定するまではない、大事なことなんですけれども、他の業種の方々、さまざまところがあるんですけども、具体的に支援する対策というのは庁舎の中で検討されたのかと同時に、これをこういう今回の臨時議会に提案するに当たって、商工会とかいろんなところの方々の意見を聞いた上での提案なのかどうかお尋ねしたいんです。

ちょっと具体的に、さらにちょっと進めますけれども、1点目の質問。これを読みますと、総務省の内閣府から出ているホームページ、ざっと開いてみたら、いや本当に驚いたんですけども、350ぐらいの事例がだあって出ているんですよ。ほんのわずか、きょうは具体的に実例になったかどうかわからないからお話ししませんけれども、ちょっと具体的にお尋ねしたい。市民要望で地域の実情に応じたということで、例えば農地や用排水路の整備の間

題とか、農道と農業用施設の改修等というのもこれいいですよ。ある意味で、安全・安心の実現という意味で。それから、少子高齢化社会、準要保護児童生徒に対する就学援助や幼稚園児等、それから園児ですね、保育料等の軽減とか、また不妊治療に要する費用の助成とか、いろんなことが書かれていたです。そういうところはどのようになされ、検討されたかどうかということ。全体として、感想ですけども、やっぱり市長が言われるように、観光がこの中の物すごい大きな柱になっていて今回の提案をしているのかなと思うんで、あらゆることを私はやっぱり検討してきたのかどうかということをもまず最初にお尋ねします。

それから、2つ目に、今さんざん論議になった出会い橋の件についてお尋ねしますけれども、端的に言って、なくなった場合どうなるのと、どういうふうに想定されたのか。もう古いから、もうやらないよといったときに、どういう想定されたのか。でも、必要だということで、こうなってくるわけですよ。

今いろんな話を聞いていると、必要性のところについて幾つか言われています。お答えがダブらないように、より具体的にお尋ねしますけれども、1つ目は生活道路として利用しているんだと言われました。たまたま、きのう私ちょっと行きました。どんな状況なのかなど、改めて。たまたま、ある旅館から1人の女性の方、多分賄いさんの方でしょうね、ちょうどおりてきて、宿からですから西平に向かって、ああ、こういうふうにご利用しているんだなど、その点わかったんですが、具体的にどの程度の人が生活としてやられているのか。

それから、生活道の関係で、小学生、中学生の通学路になっているんだと言いました。ですね。小学生が24人、中学校15人と、それ以上何かちょっと書き切れなかったんですけども、その方が利用しているということですか。ちょっと僕はそういうふうに見ていない。具体的に、小中学生があのお会い橋付近を西平から宿方面、湯ヶ島小学校に行くときにどのくらいの方が利用されているのか、把握されているのか、わかりますか。

それから、前、お話を聞いていると、ホテルを見に来るお客さんが全盛期のときに比べて40%だと、こういう状況もあるんですね。というふうに、また、もし間違っていたら訂正してください。

それから、もう1点、観光客は周遊にしたいんだと、こういう話なんですけれども、一応歩きづらいところなんですよ、あそこはね。具体的には話さないけれども、非常に歩きづらい。下を見て行かないと歩けないような状況になっているんですね。石が飛び飛びあるもので、雨に流れてその石が飛び出ているんですよ。飛び出ると変ですけども、周りの土が流れますからね。それはもう十数年前ですよ。本当に周遊しているお客さんがそういった状況の中でも、行くとほっとするんです、夏休みは、すごく涼しいから。その点では評価するんですけども、実際に観光客はどのくらいあそこを利用しているかという把握されているかどうか。そういった上で、現実にはどのくらいの利用度があるのか。生活道にとって等々も含めて、実際にあれだけのスパン、あそこを見たら2メートル25くらいあったですね、たまたまはかったら。間違っているかもしれないんですけども。今度、提案だったら2メートル

ぐらいですよ、幅が。本当に現実に合った、もし必要性があるならば、本当にそれだけの2メートルの幅が必要なのかということも検討されたのかどうか。

それから、3つ目に、また話題になっている観光プレミアムなんですけれども、やっぱり私は、今、市長が言われた検証していないということなんですけれども、もうすぐにこのパンフレット、1カ月前かな、そんなんじゃないかな、1人無料ですよという伊豆市観光協会のを大分前にもらったんですけれども、全部で53の宿泊施設が登録していると。なんですけれども、当時の提案のときに、4月の臨時議会のときに、観光協会会長名で、この4人・1人泊まると、集客効果が高く、かつまたアピール性のある企画として、ぜひともこれは対外的、中身は余り、対外的にいろんな効果が高いものとする、ぜひお願いしたいと、こういうことなんです。そこがわからないで、また今度ね、足元が見えないで、また今度出したら客が来るということの根拠がちょっとわからない。

市民の声、少し聞きましたんで、あちこち行って。それをご紹介しながら、お尋ねしたいんですけれども、地域振興券というのは自分たちが基本的には地域市内で10%プレミアをつけるから、それはまた私たちが出した、市民が出した税金がまた自分のところに返ってきて、またそれが市民のほうに戻っていく。それこそ市長がよく言われる、地域の中でお金が回るから、そういう意味では本当に活性化になったと。だから、私はあれだけ、僕も思った以上に、ぱっと1カ月ちょっとですよ、2億円がなくなっちゃったと。もう売り切れましたということで、すごく市民が要求していることだと思ったんですが、今回の件についてどういうふうに見ているかということ、観光客、いわゆる外の人たちのために、なぜ私たちの税金が10%費やされていくのか。確かに、一概に全面否定しないんだけど、私たちの税金でしょう。そうであるならば、例えば地域振興券はもうなくなっちゃったと。第2次として、お金はわからないんですけれども、2億円とまでいかないでしょう。そう簡単に2億円出したから、じゃ売れるか、その保証は僕ないと思うんだけど、その辺のね、例えば半分にする、3分の1にして、地域でお金が回るような仕組みだったら大歓迎なんですけど、どうでしょうかねということだったんですね。私、返事はしませんでしたけれども、それについてどういうふうにお考えなのか。

最後です。学校再編成に伴う整備事業というのが載っていますけれども、この基本的なことについて、ちょっと手続上の問題についてお尋ねします。

伊豆市立学校設置条例というのがありますよね。それに基づいて今学校があるんですよ。この設置のところに、「学校教育法の規定に基づいて伊豆市に学校を設置する」と。第2条で名称及び設置ということで、「学校の名称及び位置は次のとおりとする」で、だあっと並んでいるんですよ。今回の提案は、もう土肥の方々も含めて、統廃合はもうということと動いている。それは尊重しなければなりません。別に抵抗しているわけじゃないから。なんだけれども、手続上の問題で、今回はもう南小がなくなるという前提条件のもとで提案されているわけですよ。そうすると、今言われたこの設置条例というのは、じゃ、だれが承認

するかと。いわゆる設置するのと廃止するの、両方を議会の権限でやるわけですよね。その点についてのプロセスというのをどういうふうにお考えなのか。もう何かからルールをだあって引かれていまして、もう南小はなくなって当然という前提条件のもとで、さあ議員の皆さんどうですかとなったときに、もう身動きできないんですよね、議員もね。判断材料がない。だから、その辺は住民の意見を尊重しながらということですけども、そういう手続上の問題はどうか。

学校の施設の関係でもう1点お尋ねしたいのは、いわゆる土肥小学校の外壁と内壁、全部ですか、全部ですよね。そうしないとこのくらいのお金出てこないんだけど、それだけかける必要があるという根拠をちょっと示していただきたい。あちこち老朽化して、塗りがえてほしいという学校がたくさんあって、順次厳しい財政の中でやっているんですけども、一どきにそこ、中も外もというのはすごいなという、私は思ったもので、その必要性についてお伺いします。お願いします。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） まず第1点目ですが、今回の経済危機対策交付金というのは全体として二、三種類あって、地域活性化・経済危機対策臨時交付金、この事業ですね。それと、地域活性化・公共投資臨時交付金、それから道路財源の一般財源化を活用する地域活力基盤創造交付金、この3つの中で全体の事業をやっていくというのが国の考え方なんです。

今回、経済危機対策臨時交付金というのは非常に使い勝手がよい上に、金額がわかっていますので、その中で今回はこれをやって、そのほか公共事業、例えば農地と用水とか危険箇所等を公共投資交付金でどの程度使えるのか使えないのか、それから地域活力基盤創造交付金でどの程度使えるのか使えないのか、ここは再三、上に聞いているんですが、まだはっきりしてこない。ですから、これは全く使えないという可能性もあるし、幾ら来るかもわからないんだけど、そこで使える可能性があるところも、一部、公共土木のほうですがね、公共事業の土木のほうではあるだろうと思うのは予期はしているんですが、金額がわからないから、そこで幾つ回せるかは全くわからない。多分これは政権が決まるまで出てこないだと思います。

ただ、仮にそれが無い場合にも、一般財源を使ってやることは当然、皆さんご承認いただければ可能ですから、それはそれで別途ルーティンとして考えていきたい。ただ、今回は、最初に申しあげましたように、幾つかある中で、産業の振興のためになるということと条件である年度末ということを経験して検討して、基本方針を示してこのような予算を組ませていただいたわけです。

それから、2つ目に出会い橋をなくしたらということで、出会い橋はつけかえるとすれば、やっぱり市の単独事業ですから、お金はかかるんですが、もう一つの選択肢としては、じゃ、撤去してなくせばいいじゃないかということも当然選択肢としてはあります。私もなくした

らどうなるかを考えてみたんですが、湯ヶ島がどうして厳しいのかというと、まさにそうなんです。あそこが通っていないから要らないんじゃないかと、あそこに人が歩かないまちだから低迷しているわけです。湯ヶ島温泉のよさを考えると、これは修善寺の旅館の皆さん、土肥の旅館の皆さんからもよくよく伺うんですが、あのいいところを使っていないんじゃないかと。まさにそうなんです。湯ヶ島温泉はやはり溪流に沿って、あの環境の中を散策してもらうことが一番の魅力なので、そこに歩いていないということがまさに低迷状況を示している。そこから橋を取って別の事業をやるということは、選択肢としてはあります。そうすると、湯道をしっかり整備をして新たな事業を起こしてということで考えた場合に、どちらが容易だろうかを考えたわけです。したがって、今回2億円のお金はかかるわけですが、今ある資源をつかえて、そして湯道も今回一部ですが整備し、上にもわらべ橋というのがある、これも余り人が通っていないんですが、そこをどうしたらいいのか、全体の湯道をどう整備するのか、そしてその中に絶対に必要な茶店とトイレはどうしたらいいのか、そのソフトの部分を含めて考えるべきではないかと。

そして、二、三日前ですか、これはある民間の方が、国の補助金を持ってきたので湯ヶ島温泉で社会実験をしたいということがやはり同じ流れなんです。どうやって流れている、減ったとはいえ、下田街道を何百万の車が通っている。それをどうやってあの地域に落とししていくかという社会実験の中で、同じ事業を検証してみたいというような全体の流れの中で考えたときに、出会い橋をなくすということでゼロから作り上げることのほうが私はエネルギーが要るのではないかと、こう考えたわけでございます。したがって、確かに実態、小学生、中学生使っているようですが、その費用対効果で2億円ということではなくて、私はまちづくりの中で市として位置づけているということです。

商品券の中で、4月の商品券の前に、5周年、4人で1人ただということのPR費500万円積ませていただきましたので、もしそれによって、これを使った件数が何件かということであれば、後ほど観光経済部に答えさせるか、なければ調べさせていただきます。

それで、やはりこれも相乗効果ですので、4人といえば、おのずとゴルフか家族か友達ということになりますので、そのように家族をどうやって4人呼ぶのか、友達をどうやって4人組で呼ぶのか、ゴルフのセットをどうやって呼ぶのかということを考え合わせたときに、別途10%プレミアムというのは有効だろうという判断をしているわけですが、ただ、これは、じゃ、全部、市外で売れるかということも、条件としては、構想としては描いていますが、一部を市内で使うことも、もちろんこれは可能であるし、そのような使い方をさせていただくかもしれません。今、幾ら幾らという振り分けはできないんですけれども、ほとんど同じ、前回の元気もりもり商品券と同じですので、3億円分が必ず100%全部市外かということ、それはちょっと今断定できない状況ですが、市内で販売することは可能です。

ただ、基本的に、市内で内需でお金が回ることも、当然それはお金が回れば経済効果はあるわけですが、外から輸入と同じで外貨を獲得するというのは、それが達成できるのであれ

ば、そのほうが経済効果は当然高いだろうと、こう考えているわけです。

残りは学校教育委員会の所管になりますので。

議長（飯田宣夫君） 教育長。

教育長（遠藤浩三郎君） 学校再編成の問題のお尋ねですが、議員ご指摘のとおりで、順番が逆になったなと反省をしています。ただ、早々にと考えていましたが、校名がはっきりしないと議会に出せないということを僕がうっかりしましたので、12月議会に正式に上程をさせていただこうと思っています。我々も作業を進めていますので、ここで否決されると大変なことになりますので、そのときにはぜひご賛成いただければというぐあいに、おわびかたがた、お願いをしたいと思います。

議長（飯田宣夫君） 教育委員会事務局長。

教育委員会事務局長（間野孝一君） 今の補足としまして、教育長が言いましたように、学校設置条例につきましては、木村議員さんがおっしゃるとおり、設置条例の廃止を2校廃止をします。統合という考え方ではございませんので、再編成という考え方でございますので、現在の設置条例に載っております土肥小学校、土肥南小学校をまず廃止をさせていただきまして、新たな学校、再編成になった新たな学校の新しい学校名を載っていくと。

順番としまして、スケジュールとしましては、今新しい学校の校名募集をやっております。7月いっぱいまで終わります、今、応募箱の回収、37カ所から回収して、今取りまとめをやっておりまして、8月6日、明日でございますけれども、第5回の土肥地区の学校再編準備委員会のほうの地域サポート部会のほうへとその内容を上げていくという。その結果を受けて、翌月の9月の準備委員会全体会で新しい学校名を3つぐらい、3つ前後になるかと思えますけれども、絞り込んでいくということになります。それを受けて、教育委員会のほうにその絞り込んだ学校名が出てきますので、準備委員会のほうとしては、準備委員会で校名を決定することができないという、最終的には教育委員会で決めてほしいというお話でございますので、10月の教育委員会にかけます。それを受けて、教育委員会のほうで幾つか、3校前後になるかと思えますけれども、出てきた名前から1校に絞り込みます。その決定を受けて、先ほど教育長がお話ししました12月の定例議会のほうに条例の一部改正を上げさせていただくという手順を考えてございますので、ご理解をいただきたいと思えます。

もう1点でございますけれども、塗装工事でございますけれども、議員さんがおっしゃられるとおり、全部そんな感じでやることないだろうという話でございますけれども、実は中はかなり塗装が傷んでございます。現実的にもう五十数年たっておる建物でございますので、かなり傷みは激しくなっています。その中で、やらなければ、やっぱり新しい学校として使っていくという意味での維持補修の部分と、もう一つ考えましたのは、新しい学校になるということで、子供たち、地域の皆さんにその意識といいますか、そういう部分で今現在できることといいますと、例えば外装あたりも含めて、意識とか認識とか、新しい学校になったんだねという子供たちの団結力といいますか、そういう気持ちの上でも、そういうイメージ

も一つは必要ではないかという部分が多少はありました。

以上でございます。

議長（飯田宣夫君） 観光経済部長。

観光経済部長（鈴木誠之助君） 湯道の利用というような形で、具体的に数字は出ておりませんが、19年度で天城地区ですが、湯ヶ島温泉を中心に約14万人の宿泊がございまして、これらの方々にご利用されているのではないかなというふうに思っております。具体的にあそこに何人、遊歩道を利用したかという数字は持ってございません。

それから、ホテル祭りでございますが、本年度、合計で約1万7,882人のご来場をいただきました。そんなような状況でございまして、実は橋というんですか、あの出会い橋のところで、本当は太鼓なり、尺八なり、お茶のサービスということで実施したいわけですが、ああいうような状況でございまして、天城会館で太鼓の演奏等は開いておるわけでございます。

それから、もう一つ、プレミアム商品券でございます。25%引き、500万円を4月当初つけているわけですが、4人で泊まると1人無料と、実質25%になるわけですが、これらは家族というくりという中で、本夏休みを中心に誘客をしている状況でございまして、まだ取りまとめしてございません。よろしくをお願いします。

議長（飯田宣夫君） 出会い橋、通学路に使っているかどうかということですかね。

建設部長。

建設部長（小川正實君） 私のほうで通学路に利用しているという説明をさせていただきましたので、私のほうから説明させていただきます。

通学路のように、指定されているとかそういうことじゃなくて、西平地区に小学生が24名いらっしゃるそうです。それから中学生が15人、この方、中学生も天城中学へ通っているわけでございます。そして、高校生も15人いらっしゃるという資料をいただいております。

通学路として何人歩いているかというような、そういう数字はとってございません。ここに居住されているこういう方たちが学校へ通うために利用されているだろうという数字でございます。

以上でございます。

議長（飯田宣夫君） 木村議員。

20番（木村建一君） 繰り返し市長は述べられているから、状況はわかるんだけど、今回提案する理由というのは、判断材料の重要な要素なんで、いわゆる産業振興と年度末ということですよ。

少しお尋ねしたいのは、先ほど言ったように、私はせっかく、批判的にはばらまきだとか言っているんだけど、聞きたくないんで、ちゃんと地域のために役立てるといような基本的な立場を私持っているんですが、例えば市長がずっと一貫して言われている中の一つとして、耕作放棄地をどうするのというようなこともありますよね。一つの課題として挙げ

ているんですけれども、例えば今回、年度末ですべて終了するのかどうかということで、私はそこで打ち止めなのかと思ったら、そうではなくて、先ほどお話しした内閣府の調査をインターネットですっと拾っていったんですよね。全部はとてもじゃない、300は見切れなかったんだけど、その中に、あるところで、耕作放棄地再生ということで、今年度はこういう取り組みをやります、22年でいうと、こういうことを重点にやりますという項目もあるんですよね。これが合致するかどうかはそれは別ですよね。でも、よく言われる有害の被害によって、やっぱり何億円の被害を受けている。そうすると耕作、耕さない。そうするとまた、そういうイノシシやシカと人のすみ分けがまたできなくて、ごちゃごちゃになる。また被害、荒らされておるといふような状況も、当然、私は伊豆市にとっての独自のやっぱり地域活性化とか、いわゆる本当に農業関係における被害が何億円と言われているもので、経済危機対策の一環としても役立つのかなと思っておったんですね。

それで、この地域活性化・経済危機対策臨時交付金の中にも、獣害という、いわゆるそういうイノシシ、シカ等の防止柵の設置もハード面ではいいというメニューもあるんです。だから、ちょっと今回の提案するに当たって、そういうもうちょっと広い意味での考え方がなかったのかどうかということをもう一度ちょっとお尋ねします。

それから、出会い橋の件ですけれども、確かに言われるとおり、歩かないから、ますますさびれちゃうんですけれども、ちょっときのうおとといと、いろいろと出会い橋、一体全体17年前ですからね、どんなことをやられたのかなと思って調べてきたんです、議事録等を。そうしたら、これは国立公園の2種指定ですからね、まさに財団法人の国立公園協会に測量設計を委託しているんですよね。そういう歴史があるんですよ。それこそ、国のお墨つきのような形ですよ。

今後のこと、過去をどうのこうの、責任問題云々は別に私は問いませんけれども、湿気という問題があるんだけど、これ逆に湿気を好む材料であるという答弁もしているんです。それが果たしてカビと湿気とイコールなのかどうか全然わからない。カビが生えたら、じゃ、すぐにだめなのかというと、そうでもなさそうかなという、よくわからないんですけれども、もうすごくいい木だと前宣伝されまして、日本では木の橋をワンスパンではつくることはできないんです、そういう技術がありませんと。だからといって、わざわざ、日本でできないからといってオランダまで行って、この業者と行政が行って橋をつくってきたんです、わざわざ。それで100年もつといたら、ばあでしょう。

だから、そんな状況も見ながら、やっぱり今後の、私は今聞いている中でゼロというのはちょっと無理なのかなと、なくすということは。思うんですよね、今度、散策路が切れちゃうから、ぶつぶつ。ただし、ちょっとお尋ねしたいのは、これだれが管理しているのってなるんですよ。湿度の多いところだから、本当に、きのうも行ったんだけど、汚いんですよ。汚いところに幾ら来てくださいといたって、来ないですよ、幾らいい橋つくったって。ちょっと話を聞くと、何か、町時代から市にかけてと言っていたんですけれども、何か少し

清掃費が出るんですけども、財政が厳しいといって毎年どんどん削られていますという話をされました。その補助金がいいかどうかは置いておいても、じゃ、つくってくれということも、当然旅館にとっては大事な要素だからやるんですけども、じゃプレミアムをつけて、一緒にお尋ねしちゃうんですけども、じゃ旅館は何するのと、観光協会何をするんですかというのが全然見えてこないです、今回の提案の中で。それじゃ、やっぱり市民が、えって思うのは当たり前ですよ。

だから、本当に湯道を散策するような整備をしたいんだと。一理ありました。市長が言われたトイレがないと、どうするんだよと、歩いていて。男子は何とかなるが、女子なんか、とてもじゃないというふうなところも、当然今後の課題なんですけれども、一体全体、今まで何をしてきたのか。どういう整備をきちっとやってきたのかということを経済的に総括する。それから、4人に1人の件もそうですよ。きちっと総括した上で、やっぱり我々は提案し、判断していかないと、一概に、はい、いいですよというふうな、いろんな材料を与えてほしいなというふうに思うんですね。それは委員会のほうでまたやっていただければ結構なもので、その辺は要望じゃなくて質疑ですから、やれるのかどうか、その辺はこの危機感の中でお尋ねします。

最後、校名が決まっていない。今言った学校再編成の問題については、自分の立場もさんざんやっているから、絶対反対じゃないという立場なんだけれども、ちょっと順序をきちっと押さえますよ、今後。何でかという、どんどん統廃合の計画はあるんだから。片方のときに、議会、議員の皆さん、住民の代表の皆さんですよとあって、今回だって、我々議員はもう横に、ずっと奥のほうに、後ろのほうに置いておいて、どんどん進めていって、さあ、ふたをあけました。議員の皆さん、どうします。どうしますどころじゃないじゃないですか。もう決まっちゃっているんだから、全部。そういうことをやりますか、今後。という質問です。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） まず1点目のいろいろ考えたのかと。これは市長になってみて本当に思うんですが、もう毎日毎日、ありとあらゆることを考えていますし、ありとあらゆる決断に迫られ、本当に改めて首長というのは大変だなと、泣き言ではないんですが、思うんですが、したがって、今回の件も、今回の件に限らず、本当にすべてのことは考えているつもりでございます。もちろん、至らない点も多々あると思いますが。

その中で、この交付金をどう使うかということは、先ほど申し上げたやり方で整理をさせていただいたわけです。4月以来、食肉加工処理センターの準備室に2名つけて専属でやらせているんですが、思いもよらぬ苦勞があって、今度また9月で新たに補正をお願いせざるを得ないと思うんですが、これから設計、それから建設していく中で、やっぱりいろんなところも研修させて、実際にやっているところを検討しているところの中で、本当に幾つもの

生きた教訓を得ている中で、やはり1つの事業をやるというのはいろんな障害がある。それを一つ一つ除いてやっていく中で、当初はシカ肉センターと農業法人も一緒に、途中から一緒にできないかなと考えていたんですが、余りに難し過ぎて、やはりシカ肉はシカ肉、農業法人は農業法人で別立てでやらなきゃいけないと、こう考えているところです。

農業法人も、遊休地、耕作放棄地等データが去年そろいましたので、その中でどこに何をどれくらい生産するのか、それをだれがやるのか、お隣の市のように農業法人があるわけではありませんので、一体どなたが、例えばシルバー人材センターの中の何人が大根が専門なのか、何人が葉野菜が専門なのか、それも調べた上で、そして将来のためには、それをコアをつかった上で、若い人たち、例えば高卒のような、今、横浜、東京へ行っても就職のない子たちに、所得はちゃんと保障するから、ここに一緒にやっっていこうというようなことをつくろうと思うと、とてもこの交付金の中に入れることはできなかった。やりたいんです。本当は農業法人、一日も早くつくりたいんですが、そのような制度設計をすると、とても申しわけないですが、とてもとても協議が間に合わなかったということで、ぜひ来年度にはその制度をつくる枠組みをつくり、またしかるべき予算をご承認いただきたいと思います。

それで、2点目の出会い橋のだれが管理かは後ほど担当の部長から説明させますが、検証すべきだというのはそれはまさにご指摘のとおりで、これはやりませんと、意味がありませんということではなくて、5周年記念も4月に予算をいただき、5月以降、5、6、7の3カ月ですので、これを使った人数は出ると思いますけれども、ちょっと今それをもって成果あるなしというのは少し早いのではないかと。もちろん、適切なタイミングでしっかり検証はし、皆さんにもご報告を申し上げる義務はあると思っておりますけれども、今走り始めたところですので、そのようなことをご理解をいただきたいと思います。

それから、3点目は教育委員会が所管なんですが、予算を管理する立場として、手続、私も今ご指摘いただき、多々反省するところございますので、これ以降、これを前例として、このやり方でやるということではございません。予算で前後するところはどうしても出てくるころはあろうかと思っておりますが、仮にそのようなことが将来起これば、皆さんにちゃんとしかるべくご理解をいただくか、可能な限り正しい順次でやらせていただくように、市長としても配慮をしております。大変、議会軽視とも思われかねないことで、その点についてはおわびを申し上げたいと思います。

議長（飯田宣夫君） 建設部長。

建設部長（小川正實君） 維持管理はどこでやってきたかということでございますけれども、従来はこれは市道に認定されております。しかしながら、清掃、洗浄、殺菌、塗装、防腐剤処理等の補修でございますけれども、これは観光費のほうでやってきました。

それで、今後、これは市道でございますので、我々は市道の管理担当部局といたしまして、市道の安全対策を今後も建設課として建設課のほうでやっっていこうと考えております。

ただし、観光施設としての利用の方向がございまして、これは観光、商工とも協力しな

がら、進めていきたいと思っています。

議長（飯田宣夫君） 次に、教育長。

教育長（遠藤浩三郎君） 市長からお話しありましたけれども、気をつて、次の中伊豆地区に入りますけれども、実施していこうと思います。この8月17、18、20日と、中伊豆地区には説明会で入っていきますけれども、順番間違いないよう進めてまいりたいと思います。

ただ、住民の意思、大変住民の意見を十分に聞いてというような順番があるものですから、それに入るとどんどん進んでいっちゃうという問題もあるものですから、十分気をつけていきたいというふうに思っています。

議長（飯田宣夫君） 木村議員。

20番（木村建一君） すみません、確認です。

とりわけ、やっぱり市民の皆さんに関心あるのは、6億円のうちの、全部解体費も含めてですけれども、2億円の橋なんですよ、やっぱり、1つはね。1つはですよ。それだけちょっとお尋ねしますけれども、今お話を聞いていますと、整備されていないから歩かないと。じゃ現状どうなっているのとなると、それは今の、行ってわかるけれども、歩きづらいというような状況の中で、幾ら歩け歩けといったって無理ですよ。たまに2人ぐらい、夫婦の方が歩いているという。一番いいのはやっぱりげた履きかな、靴じゃだめですね、あそこはね。みんな、げた履きでおりていくんですから。急坂であって、げたで歩けないところもあるんですよ、現実には。そういったときに、ちょっとお尋ねしたいのは、余り湯道ばかりで議題を外れますから、今、現状把握されていない、しっかりと。でも、必要だといったときに、今、市のほうで考えられている2メートルですか、という条件で考えられますか。現状はわからない。ちょっと具体的にお尋ねします。狭くてもできるのか、できないのかという検討はされますか。

議長（飯田宣夫君） 市長。

市長（菊地 豊君） 確かに歩きにくい。私も何度か通って、あの周辺、今歩いてみているんですが、1つにはやっぱり湿度が高くて、上のわらべ橋もそうだけれども、非常に歩きにくい。その中で、それからバリアフリー化も当然なされていないところが多々ある。あるいは、下のほうが歩きにくい。それから、先ほど言いましたように、ソフトの部分でも足りないところがたくさん。ですから、あくまでこれは一部であって、ただ、その中のメインとなる場所なので、ぜひやらせていただきたいということですが、それをもってすべてというわけではありませんので、例えば先般も湯ヶ島の旅館の皆さんが、あそこは修善寺のように全部並んでいるわけではなくて、点在しているわけですね。そうすると、旅館がそれぞれ自分の売店、自分のトイレを出し合えば、即、茶店と売店とトイレができるわけです、その瞬間に。それを彼らはぜひやってみたいという。そのようなソフトのほうも含めて、環境の整備も含めてですね。

それから、あそこに幾つか高級旅館、ホテルがあるんですが、やっぱりそのランクの方が

来られると、正直言って散策、散歩にどうぞというルートがなかなか難しい。それはもうやっていない朽ちた元旅館もありますし、そのような整備もしなければいけないし、それからやはり伝統芸能が欲しいという、そんなソフトもやっぱりニーズとしてあるんですね。ですから、そのようなものを話し合う場も、これから旅館だけではなしにやっていくと、地元の関係者の皆さんも言っているし、その第一歩のハードの部分として、今回の一部分を、確かに高額なんですけれども、ご理解をいただければと思います。

もう一つの選択肢は、先ほど申し上げました、なくしちゃうというものもあるんですが、どちらが全体としてエネルギーを要するかということを考えると、このほうがベターなのではないかと、こう考えているわけでございます。

議長（飯田宣夫君） 建設部長。

建設部長（小川正實君） 現況、今の人道橋が有効幅員2メートルでございます。この次は幅員をどうするかということなんですけれども、2メートル、それを復元するというふうには決めてはございません。ただ、狭くした場合に、その場合に危険性がまた出てくるということもあるというふう聞いています。

それから、この橋の単価でございますけれども、桜橋を前提に平米単価をもとに算出しました。そういうことでございまして、これが幅員を狭くしたから安くなるとは一概には言えないと思います。桜橋は3.4メートルございますので、そこで経済性のためにも狭くするというふうには、まだそこまで決定はしてございません。一応現況、幅員2メートルを考えておりますけれども、決定ではございません。

議長（飯田宣夫君） 他に。

19番、三須議員。

19番（三須重治君） 19番、三須です。

3点ほど、質問をお願いします。

私は、やっぱり地区要望には1億円や2億円ぐらいのものは対応すべきだということを前提にして、話をさせていただきます。その財源は、やはり今回提案されておる事案を徹底的にコストを意識して精査をした中で実施してもらい、財源を浮かせると。そんなようなことを前提に質問をさせていただきます。

まず第1に天城ドームですが、ドームというのは雨降りでも競技ができるというのが一番のメリットなんですね。だから、それが用を足せるならば、人工芝にこだわる必要があるのかなど。やはりそこで比較を、じゃ土でやったらどうだと。改修のコスト、あるいはこれからのランニングコスト、どちらがいいんだという。じゃ、また土だったら利用者はいないのか、人工芝でなければ利用者はいないのか、そういうところもやはり検証した中で、ぜひこれは検討してもらいたいと思います。その辺の市長の所見があったら伺いたいと思います。

次に、出会い橋ですが、やはり私もある専門筋の技術者に聞きましたところ、やはりまだ地区17年の橋が老朽化してかけかえだといったときに、基礎の部分というのは十分使える可

能性があると。その人も現場を見たわけではありませんが、そうすると基礎が使えるということになると、非常に安い価格に抑えられるという、私もそういうアドバイスもいただいたわけですが、ぜひその辺、基礎を使っていけるかどうかというのもぜひ検証してもらって、やはりあるものをなくすというのは非常にいろんな面で各方面へ影響があると思いますので、つくことを前提として、いかに用を足せる、またコストも抑えていけるかという努力は十分してもらいたいと思いますので、その辺の検証が、今までのこの提案の中にそういったものが含まれているの積算かどうか、その辺もひとつ伺いたいと思います。

それから、プレミアム商品券ですが、私はやはりそれ、いろんな方面で観光のいろんな集まりのときに話に出ることが、やはり識者の中から出る言葉の中に、1つの事業をやるのに、人に財源を当てにしているようではうまくいかないよと、事業は、やはり補助金をもらうにしても、自分たちが計画を立案したら、その大半を自分たちで事業費を捻出するぐらいのエネルギーがなかったら、事業は成功しないというのが、市長もいろんな各方面へ出てそういう話も聞いていると思いますが、こういう一つのプレミアム商品券においても、何においても、今回提案されているいろんなスポーツ施設においてのこういう改良をしていただければ、我々もこうして次の事業発展に結びついていくと、ぜひお願いしたいという、そこが立ち上げになれば、やはり事業というのは僕は成功しないだろうと。していくのは難しいなと。非常に市長は親切に、市長の発想の中からいろんなこういう提案をなされているわけですが、やはりそれは逆じゃないかと。提案はされても、やはりそれを本当に観光業者が消化して、よし、これを機会にこれを起爆剤にして、よし我々も発展しようという気持ちが起こってきて初めて、私は事業着手をするものだと、そういうふうに認識をしておりますが、その辺の所見を伺います。

時間もありませんので、再質問をしませんので、丁寧な答弁をお願いします。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） まず第1点目の地区要望に1億円程度使うべきだということでございますけれども、これは先ほど申し上げましたとおり、この交付金についてはこのような使い方をさせていただきたい。もし、その地区要望の中で本当に優先的に早急にやるべきことがあれば、別途もう一度、私も今、数百ある地区要望を自分で精査しているわけではありませんので、もう一度精査をさせていただきまして、緊急性の高いものについてはなるべく早くできるように、改めてそちらは検討させていただきます。必要なものは、9月、12月で補正をお願いしてもやらせていただくことで、前向きに検討させていただきたいと思います。

2番目の天城ドームの人工芝ですが、せっかく、私、女子のソフトボール、男子のソフトボール、全日本に来ていただいておりますので、まず彼らの要望にはこたえたい。それから、あそこは大人は無理です、もう。少年野球は使っていますので、今、人工芝の上にベースを置いているんですけども、ソフトと少年野球の内野の部分が土になるようにやりたいと思

っています。外野とファールグラウンドは人工芝でやりたい。それによって、少年野球とソフトボールはあそこで使える。そして、外野の部分でゲートボールとか、引き続き雨の場合のテニスかな、も引き続き使えるようにするというので、ゲートボールも全国大会をやっていたいただいていますので、一番バランスがよくなるのではないかと、現地で判断をさせていただいたところでございます。

出会い橋の基礎の部分について、これは建設部長から後ほど答弁をさせますが、全部木ですので、コアの部分が鉄とか鉄筋コンクリートとかでできていれば、まさにそのとおりだと思いますので、そうなるように、しっかり鉄で作り、化粧板で化粧するというようなやり方に変えさせていただきたいと思います。

最後の観光商品券のことですが、これはもう今繰り返すまでもなく、再三、また観光か、また宿の支援かということがありますが、これも私も再三繰り返しているように、観光振興イコール宿泊施設の支援ではないんですね。ですから、今回の観光商品券は、以前いろんなところであったような宿泊券ではなくて、この間とほぼ同じ商品券なんです。ですから、八百屋さんでも使ってもらえるし、そこのお店でも使ってもらえるし、もし市民が一部買うのであれば、今までと同じように、市内でいろんなお店で使えるという性質にあえてしたわけですね。ですから、ただ、外のお客さんに売りに行くにはだれがいいかと考えたら、今まで実績のあり、そしておつき合いもある、圧倒的に数からいったら、もちろんドライブインにも旅行代理店にも期待するところはあるんですが、何ととっても、ここの宿泊施設80軒の旅館、民宿さんに売ってきてもらわなければ、圧倒的な量がはけないわけですから、そこは当然自分のこととしてやっていただきたいと。

そして、それから、そもそも観光協会、伊豆市が合併して5年ですが、同業各地区の共同事業というのは難しい。私はそこはそもそも観光業をどうするかというところで、むしろ修善寺はいろんな意味で長岡と近いし、土肥は西海岸でくくって一緒にやれるところが多いし、湯ヶ島は今までも河津とやっているところがあるわけですから、その地域その地域で独自の事業を町の国境とは別にやっていただければいい。ただ、共通の観光戦略、観光企画というのはやはり観光協会ですっきりやってもらうような、そのような体質に変わっていただきたいし、そのための法人化の作業も今進められているやに聞いておりますので、しっかりした観光施策というものが構築できるように期待をし、その方向に沿って支援を続けていきたいと思っています。

それから、もう一つ、最後に申し上げたいんですが、企業誘致を余り今考えるべきでない、いろんな方からアドバイスをいただいています、今この世界経済と日本の経済の状況を見て、伊豆の立地等を考えて、新しい企業に来ていただく努力というのはほとんど多分徒勞に終わるだろうと。今ある企業、今ある産業を大事にきなさいというアドバイスがやっぱり圧倒的に専門の方からは多いですね。その中で、この中にある商工とか観光を考えると、このようなタイプの観光商品券というのは効果が全体として高いのではないかと、このよう

に判断をしたわけでございます。

議長（飯田宣夫君） よろしいですか。

大川議員。

11番（大川 孝君） 私は、今回のこの交付金の使い方と申しますか、まず伊豆市の市政経営の目標を将来に置くという市長の考え方は大変大事であり、そのように運営をしていただきたいわけでございます。しかしながら、今回のこの経済対策、麻生内閣で出されました天から降ってわいたような大変ありがたい貴重な大きな交付金でございます。これは現在の今の経済、平成21年8月5日現在の伊豆市の経済がどうなっているかと、そういうものに重点を置いて、安心・安全のある市民生活が少しでもよりよくなっていくかということに、この予算を使っていくことが大変重要であろうかと思うわけでございます。

さまざま、いろいろと長々、各委員からも質問されております。私は1点、例えば太陽光発電のソーラー、いわゆる市民の住宅には250万円、生きいきプラザには4,500万円、行政の公共施設にそんな大盤振る舞いと思うようなそういう予算でなく、今回のこれにつきましては全部、伊豆市民が日々の生活でエコ環境をよくしたいと。大体、今、坪数にもよるそうですが、200万円から300万円ぐらいかかるようでございます。自動車1台買うぐらいの値段でございます。何とかそういうものもやはりやりたいけれども、なかなか200万円、250万円というお金が、あれもこれもという家庭の中にはいろいろの使い道があるわけですね。でございますので、なかなか思うように進まないというのが現状じゃないかと思うわけですね。

そうした中で、やはりそういうものに5,000万円でも使って、そしていくことが、市民の屋根にそういうものを使っていくことが大変大事ではないかと思うんですね。公共施設にお使いになるとしたら、市の庁舎なんていうのはもう最後で、どちらかという幼稚園とか小学校、中学校、そうすることによって、太陽の恵み、このエネルギーというのはこうですよと、科学的、あるいは社会的な勉強の一環にもなるし、そういうものにも使っていただいたほうがいいんじゃないかと思うわけです。

そういう意味で、今回の例えば一つの例ですが、太陽光のことにつきましては、250万円という市民の補助金も定額の補助金でございますが、その辺はどのようなお考えでこういう生きいきプラザ等に設置しようということになったか、ちょっと聞かせていただければありがたい。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

市長。

市長（菊地 豊君） 太陽光は非常にイメージはいいんですが、発電能力が非常に低くて、特に風力等と比べると、全体としての効果は非常に小さいんですね。そもそも伊豆市には新エネルギービジョンとか、あるいは天城エコタウン協議会で1市3町でやっている事業もありまして、その中の一部なんですね、本来。ただ、その全体計画の中で、風力発電が頓挫したり、その他の事業が、バイオマス等がなかなか進まない中で、太陽光は今までやっており

ませんでしたので、今回ひとつ取り上げさせていただきました。

ただ、当然これを検討する中で、比較的施設の大きな旅館への補助のあり方とか、個々の住宅への施設の補助のあり方とか、あるいは公共施設でどのように使うかを検討したんですけども、これは非常にやっぱり効果が少なくて、なかなか旅館、あるいはホテル、あるいはゴルフ場等では扱いにくいんですね。だからといって、最初から排除するものではないんですけども、ただ、今、市民からご要望が多い。うちにもつきたいので補助をしてくれということにはちゃんとこたえようということで、このような補助制度を、金額はまた多ければ追加をしたいと思うんですが、件数からいくとこのような数ではないのかなということで、施策としてCO₂削減のために市も貢献するというので、生きいきプラザにつけさせていたただこうということで予算計上させていただきましたが、費用対効果でいくと必ずしもそう高くありませんので、あえて学校とか中伊豆支所とかにはつけずに、まずは生きいきプラザでということでございます。個々の住宅への補助については、様子を見て、効果があれば、市民の皆さんの要望が大きくなれば、さらにふやしていきたいと考えております。

議長（飯田宣夫君） ほかに質疑はありますか。

〔発言する人なし〕

議長（飯田宣夫君） これで質疑を終結いたします。

以上で質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第57号については、会議規則第37条第1項の規定により、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

散会宣告

議長（飯田宣夫君） 以上で、本日の議事はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

次の本会議は、8月7日午前9時30分より再開いたします。よって、この席より告知いたします。

本日は大変ご苦労さまでした。

散会 午後 0時15分

開議 午前 9時30分

開議宣告

議長（飯田宣夫君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから、平成21年第3回伊豆市議会臨時会を再開いたします。

ただいまの出席議員は20名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

議事日程説明

議長（飯田宣夫君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

議案説明のため、地方自治法第121条の規定により市長以下職員の出席を求めましたので、ご報告いたします。

ここで市長より発言の申し出がありますので、これを許します。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

市長（菊地 豊君） 皆さん、おはようございます。

昨日まで、議案第57号 一般会計補正予算について委員会でご審議を賜りました。その中で多々尊重すべきご意見がございましたので、採決の前に市長として一言申し上げる次第でございます。

まず1つ目に、大変ご指摘の多かった太陽光発電につきまして、伊豆市の経済効果にとって、その効果が少ないというご指摘が多々ございました。

環境問題、いずれにしましても経済効率は非常に少のうございまして、その結果、政府の政策としてでなければ環境問題は進まないという現状でございます。

私は今回、全額国から交付を受ける交付金の中で、伊豆市としてもあるいは伊豆市民としても、地球的規模の問題である環境問題では、その一端を費やすことによって参画すべきであると考えた次第でございます。

なお、多々ご指摘のございました使い方に関しては執行の段階で慎重に検討させていただき、より効率的かつ市民の皆さんあるいは将来を担う子供たちが直接見えるような形で設計のほうを工夫をさせていただきたく存じます。

2点目の地区要望を入れるべきであるというご指摘に関し、今回約6億組んでおりますところの9割程度は、来年度あるいは再来年度以降どうしてもやらざるを得ない事業でございます。

したがって、この大半は将来の一般予算の先取り執行ということになっております。その一部を充当いたしまして、地区の要望の長年積み重なっております地区要望にこたえる

事業を加速をさせたいと考えております。

そのために、今回は1週間等で640カ所の地区要望の優先順位を執行部のほうで決め、選出するという作業が間に合いませんので、ここは、この交付金にかかわる補正予算のほうでは原案どおりご了解いただき、9月の補正予算あるいは12月の補正予算の中で、将来軽減される一般予算を充当して地区要望にこたえる事業を加速をさせたい、このように考えておりますので何とぞご了解を賜りたいと思います。

なお最後に、今回の審議を通じて、改めて市民の代表である議会及び議員の皆様方を尊重し、そして皆様方のご意見に真摯に拝聴する姿勢でこれからも行政を遂行させていただきたいと思っております。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

議案第57号の委員長報告、質疑、討論、採決

議長（飯田宣夫君） 日程第1、議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）を議題といたします。

本案については、今臨時会初日の5日に上程され、各常任委員会に審査を付託してありますので、審査の経過と結果について各委員長の報告を求めます。

初めに、総務教育委員会委員長、三須重治議員。

〔総務教育委員長 三須重治君登壇〕

総務教育委員長（三須重治君） 19番、三須重治です。

ただいま議長から報告を求められました議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）、総務教育常任委員会の所管科目について、主な審査の経過と結果をご報告申し上げます。詳細につきましては、議員控室で概要書が閲覧できますので、質疑の主なものをご報告いたします。

初めに、総務部の関係ですが、委員より、11ページにございます太陽光発電設備工事につきまして、生きいきプラザの屋上に上り太陽光パネルを見ることができるか、啓発用であれば地上に設置したほうが効果的ではないかとの質問に対しまして、屋上に上れるような現状ではないので、パネルを見られるようにすることは考えていません。見せるだけが啓発ではなく、市として二酸化炭素削減事業に取り組むことや、玄関入り口に設置する表示システムにより、十分啓発できると考えていますとの答弁がありました。

続きまして、太陽光発電のシステム出力が30キロワットの理由と設備投資分の回収見込みはどれくらいあるのかとの質問に対し、生きいきプラザ屋上に設置できる太陽光パネルの最大枚数から30キロワットという数字が出ました。この設備によって賄える電気代は年間三十数万円ですので回収にはかなりの時間が必要ですが、地球温暖化対策に市としても取り組むということでの提案ですとの説明がありました。

続きまして、教育委員会の関係ですが、17ページの学校再編事業について、土肥小学校は

築50年以上で構造的にも古い。建てかえを考えるべきだと思うがとの質問に対しまして、ずっとこのままでいいとは思いませんが、耐震基準もクリアしているので、当座はここを使っていきたい。いずれ校舎は建てかえなければならないので、今回の補修工事の金額が大きいというご指摘はそのとおりだと思いますが、子供たちのことを考えて新しい出発と強く印象づけられるような改修をしてほしいとの要望がありましたので、ご理解をいただきたいと思っておりますとの説明がありました。

続きまして、19ページ、丸山スポーツ公園整備事業について、野球場として狭いと思うが、今の現状のまま整備するのか、またグラウンドの排水が機能していないようだが、土の入れかえをするに当たってどのように考えているかとの質問に対し、プロ野球や高校野球は無理ですが、周辺地域の活性化も含め、少年野球や還暦野球には最適な環境だと考えます。整備項目の中には排水機能の改善は入っていませんが、多孔管の状況を調査し、排水機能がないようであれば、詳細設計の中で検討させていただきますとの説明がありました。

以上、審査の後、反対討論が3件あり、採決の結果、付託されました議案第57号につきましては可否同数となったため、委員長が委員会条例第16条の規定により、原案を否決すべきものと決定いたしました。

以上、総務教育委員会、委員長報告を終わります。

議長（飯田宣夫君） 次に、福祉環境委員会委員長、杉山誠議員。

〔福祉環境委員長 杉山 誠君登壇〕

福祉環境委員長（杉山 誠君） 7番、杉山誠です。

ただいま議長から報告を求められました議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）、福祉環境委員会所管科目について、審査の経過と結果を報告いたします。

質疑等の主なものとしまして、補足説明があった後、委員より、住宅用の太陽光発電の設置補助金について、補助金を出す期間や補助金の金額を1キロワット当たり3万円としたことの根拠を問う質問には、3年間の事業を見込んでいます。市町によって補助金額は違いますが、伊豆市の財政規模からすればおおむね適正な金額ではないかと考えました。今年度に限っては100%交付金で充当できますが、次年度以降は市単独事業としての補助金になりますとの答弁がありました。

また、委員より、環境美化事業について、今回の事業でどのくらいの不法投棄の除去を見込んでいますかとの質問に対して、3月末で調べた段階で47カ所の不法投棄箇所がありました。現在三十二、三カ所残っています。全部、一度は片づけたいと思っています。急斜面が残っているのでクレーンを借りて引き揚げることも計画していますとの答弁がありました。

さらに、回収したごみの処理を問う質問には、燃える物、缶等の小さいものについては、清掃センターに運んで分別処理を考えています。粗大ごみについては、今回処理費用は入っていないので9月補正でお願いしたいと考えていますとの答弁がありました。

次に、住宅用火災警報器購入補助金について、委員より、遡及して補助する対象者が領収

書をなくした場合の基準はどうなりますかとの質問には、取り扱い内規をつくろうと考えています。現場を見させていただいて、メーカー等から金額を把握して補助金を決めたいと考えていますとの答弁がありました。

次に、女性特有のがん検診推進事業について、委員より、子宮体がんについては対象となりませんかとの質問には、体がんまでは考えていません。今回の女性特有のがんについては、国も子宮頸がんと指定しているので、その方向で進めたいと考えていますとの答弁がありました。

また、受診率を上げるための取り組みを問う質問には、国もこの事業について、事細かなマニュアルを出し、今までの周知方法と違うので、受診率も上がると思います。保健委員さんにもお願いして、受診率を上げる努力をしていきたいとの答弁がありました。

以上、審査した後、賛成討論があり、採決の結果、議案第57号は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、福祉環境委員長報告を終わります。

議長（飯田宣夫君） 次に、経済建設委員会委員長、杉山羌央議員。

〔経済建設委員長 杉山羌央君登壇〕

経済建設委員長（杉山羌央君） 10番、杉山羌央です。

ただいま議長から報告を求められました議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）、経済建設委員会所管分について、審査の経過と結果をご報告申し上げます。

初めに、観光経済部の関係であります。当局からの補足説明に続き質疑を行いました。

当議案の審査において、質疑の主なものといたしまして、まず、委員より、天城ドーム人工芝の改修について、決して人工芝をやってはいけないということではないが、今はまだ最小限にとどめ、市民の要望にこたえるべきではないかとの質疑に対し、今回は将来の経済対策のために組ませていただいた。伊豆市のスポーツ施設が恵まれている今、優位性があるときに、スポーツグリーンツーリズムをやっていく上で、ソフトとハードをしっかり整備させていただきたいとの説明がありました。

次に、委員より、ドームは雨が降らないわけで、人工芝でなければならないのかとの質疑に対し、大会が行われるところと同じ条件で練習したほうが、大会に強いということはあると思います。土だとしてもらえないのではないかとの説明がありました。

次に、委員より、三カプロジェクトと指定管理者との関係はどのようになっているのかとの質疑に対し、現在の指定管理は施設管理と事業運営も両方やっているが、事業の企画、運営は三カプロジェクトで専門家も入れてやっていきたい。その際、指定管理者にも入っていただきたいとの説明がありました。

続きまして、建設部の関係であります。当局からの補足説明に続き質疑を行いました。

当議案の審査において主なものといたしまして、委員より、出会い橋は生活道路、通学路、観光道路として使われていると言っているが、地域の人に聞いたが通常は使っていない。通

学路も該当者は3人いるが、集団登下校しており、滑って危険なため現在通学者はゼロである。また、観光客は写真を撮りに来ることが圧倒的に多い。交通量調査をしたのか。また、景観を考えた橋をつくってもらいたいがいかかとの質疑に対し、交通量調査はしていない。西平地区にどのくらいの児童がいるかについて回答した。また、地元のためにどの程度寄与するか。飯桁橋の中で地元と話をしながらデザインを決めていきたいとの説明がありました。

次に、委員より、今回の交付金がなかった場合には、どのような資金を使うのか、検討はされたかとの質疑に対し、観光施設整備事業で50%県費補助金がある。残りの50%については起債も可能であるが、壊す費用はすべて単費であるとの説明がありました。

次に、委員より、コスト削減という話が出たが、現在の基礎を使つての補強等は可能なのかとの質疑に対し、既存の基礎ではいい基礎ができるか不安である。新たにつくったほうが丈夫で経済的であるとの説明がありました。

以上、審査の後、全委員より反対討論・賛成討論があり、採決の結果、賛成少数により議案第57号につきましては、原案を否決すべきものと決定いたしました。

以上で、経済建設委員会の委員長報告を終わります。

議長（飯田宣夫君） 以上で各委員長の報告は終わりました。

これより暫時休憩をいたします。

この休憩中に、ただいまの各委員長の報告に対し、質疑、討論のある議員は、通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩 午前 9時46分

再開 午前 9時50分

議長（飯田宣夫君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまから議案第57号について質疑を行います。質疑の申し出がありますので、これを許します。

初めに、12番、森良雄議員。

〔12番 森 良雄君登壇〕

12番（森 良雄君） 12番、森良雄です。

福祉環境委員長からのご報告で子宮頸がん、乳がん検診の受診勧奨についての報告がありましたけれども、今回のがん検診の受診勧奨は、この子宮頸がん、乳がんの2つに絞られた受診勧奨です。がん検診ほかにもいろいろあるわけですが、肺がん、胃がん等含めて。

残念ながら私たちのまちは、これは有料制になっております。がん検診の受診率は高いと言えるものではないはずですが、ご夫婦で一般のがん検診を受けると、恐らく四、五千円になってしまう。これが我がまちのがん検診の実態です。

この2つ、今回は確かに2つのがんに絞られておりますけれども、やはりがんというのは

現在ではほとんど2人に1人はかかるであろうと言われる時代になってきております。そういう中で、ほかのものについて委員会でご審議があったかどうか、できれば無料化するのが将来の医療費の節約にもなるし、市民の健康維持にも大変効果があるはずと思いますので、ぜひ委員会のどんな内容があったかお伺いしたいと思います。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

杉山議員。

〔福祉環境委員長 杉山 誠君登壇〕

福祉環境委員長（杉山 誠君） 7番、杉山です。

お答えします。

委員会の中では、女性特有のがんについての審査をされたわけでございますけれども、その答弁の中で、常日ごろから他の胃腸系のがんであらうと上げなさいと言われておりますので、保健委員さんなんかにも少しお願いをして上げるような努力をしていますというような答弁はございました。

そのほかには、森議員、委員外議員として市長に質問をされたものですので、一番承知していると思いますので、その辺は了解願いたいと思います。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 再質疑ありますか。よろしいですか。

それでは、以上で通告による質疑は終わりました。

これより暫時休憩をいたします。

この休憩中に、先ほどの各委員長の報告に対し、討論のある議員は通告書を議長に速やかに提出願います。

休憩 午前 9時54分

再開 午前 9時58分

議長（飯田宣夫君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、発言を許します。

先に反対討論から行います。

12番、森良雄議員。

〔12番 森 良雄君登壇〕

12番（森 良雄君） 12番、森良雄です。

議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）について、反対討論をさせていただきます。

まず、さっき冒頭市長から地区要望を順次やるというお話がありましたけれども、残念な

から、菊地市長、議会が始まるたびにいろいろおっしゃってくれますが、言うことがころころ変わる。本当に地区要望をやってくれる気があるんだったらね、具体的に何をやるんだ、出していただくべきだと僕は思います。

トップセールスをやるとおっしゃいました。成果が上がっているんですか。天城ドームに何人呼んできた。どんどん成果を発表してください。観光客を1割アップする。きょう現在、何%アップしました、そういう成果の発表は何もない。

6月議会では、天城温泉会館、指定管理者制度に置いた。しかし、きのうの委員会発言では指定管理者制度は問題があるとまで言い出している。天城温泉会館の指定管理者制度はどうなっているんですか。6月議会ではバラ色構想が出ていたはずですよ。内部の改装も6月議会では言っていたはずだ。今回の補正予算には何ものっていない。一体どうなっているんですか、天城温泉会館は。私は6月議会で、あの施設は死に体だと言っておりますから、今後は当然そういう方向に進むであろうとは予測しておりましたが、実際問題としてそういう方向に進んでいるのではありませんか。

さて、本題に入ります。

この補正予算案は先に国からの補助金がある。それをどうやって使うかが先行しているんですよ。ですから、内容は余りにも大ざっぱだ。

一番いい例が出会い橋のかけかえ。取り壊し費用がかかるといっても、2億2,000万円をかけると。市長さん、この議会の冒頭、官製談合について、いいかい、そんなのはないと言ったが、あなたのやっている制限付き入札は、例えば地元の業者でAクラスかBクラスか知りませんが、Aクラスの業者にという制限をつけたら、もうこの出会い橋のかけかえ工事、だれがやるか決まってしまうんですよ。

私たちのまちは、電子入札を導入して透明・公正な入札制度を導入したんだ。去年から始めている。あなたが市長になってから制限付き入札で、ごらんください、修善寺南小学校体育館工事、落札率は98%だ。これが伊豆市の入札の実態だ。この補正予算は金を使うことしか考えていないんだ。

地元の皆さんもきょうは傍聴に来ている。私はボランティアですが、自然解説員というものをやっておる。私の考えは、自然をこう守るのだったら自然を破壊してはいかん。橋をつくったり、道路をつくったりすれば必ず自然破壊が起こる。一番いい例が尾瀬の木道ですね。あれは、自然破壊を防ぐためにつくったんです、木道。しかし、木道自体がもう自然破壊なんですよ。道路をつくれれば、そこに立っている木は切らなければならない。自然破壊なんです。奥入瀬渓谷をごらんください。渓谷沿いに国道が走っておりますが、人が入れるのは部分部分です。清流で有名な四万十川、あれはなぜ清流か。道路がないんですよ。橋もないんです。一部ありますね、有名な沈下橋。これは、市街地にしかありません。

だから橋をつくるというものはね、やはり慎重に考えなければいかん。今度のかけかえは、現在のアーチ式の橋を単なるけた橋に変えると。アーチ式だからあそこで観光客が写真を撮

るということも考えるわけですね。木製だから考えるのでしょうか。かけかえの理由に危険だと言いながら、それじゃ通行どめにしているんですか。説明の段階では、子供の通学路だとも言い出しておりました。

湯ヶ島の皆さんに橋をつくれれば観光客が来ると思う、これはもう当然だと思います。一度つくってしまえば便利です。しかし、ごらんなさい、今の橋でさえ、あの渓谷に橋の下から見てごらんなさい、上を。ぶっ壊しじゃないですか。そう思いませんか。あのぶざまな橋の、下から見た橋、ぶざまだと思いませんか。私はぶざまだと思えますよ。どうして温泉管をあそこへ通したか知りませんがね。

どうしても橋をつくりたかったら単純な、あそこにあるんだっただけの橋程度でしょうね。私はそう思う。本当に出会い橋や湯道をつくるというふうに考えるのだったら、まず自然破壊を起こさないようにはどうしたらいいのか、現状の景観を守るにはどうしたらいいのか、よく考えてからやるべきだ。

スポーツ施設改修工事、幾つもの施設の改修を行います、一つ一つ言っていくと一日かかってしまう。まず一つだけ、天城ドームだけに限定しましょう。

本当に人工芝が必要なんですか。あの施設を使う大多数の方は、幼児、お年寄り、いわゆるあの施設は幼児からお年寄りまでがお使いになるんですよ。人工芝は何が問題なんですか。プロ野球選手がよく故障する、なぜですか。人工芝そのものが問題なんじゃないんですよ。人工の芝の下の基礎部分が問題なんです。かたいんです。私はジョギングをよくやりますけれども、かたい道路でジョギングすると必ずひざを痛める。これが人工芝の問題点なんです。この人工芝の張りかえは、いわゆる一流選手を対象にしてやっておるんです。それなら、一流選手があそこへ確実にこれから来てくれるという保証はあるんですか、市長さん。まずそれから先にやってくださいよ。これからの女子ソフトはあそこでやるんだと、そういう保証はないでしょう。そうしたら、市民の健康を、また野球やソフトで伊豆市を訪れてくれる人たちのことを考えたら、やはり自然に優しい、やはりもっとやわらかいグラウンドをつくったほうがよろしいんじゃないのでしょうか。

学校再編整備事業に伴う支出もそうです。金額は少ないです。あ、金額少なくはないですね。6,000万近い金額が出てくるわけです。土肥小学校の改修、本当に土肥小学校の子供たちのことを考えましたか。あの建物は52年前の建物なんです、ちょっと間違っているかもしれませんがね。50年以上前につくられた建物なんです。今、修善寺や中伊豆や天城の小学校とは構造がちょっと違うんです。南向きの校舎に直接太陽が当たるようになっている。ひさしも何も無いんだ。そこへ5,000万を超えるような改修費を投入したら、土肥の子供たちは今の状態でもって10年も20年も使うことになるのではありませんか。6月、7月、直射日光がまともに当たるような校舎でね、我々はこれからも勉強させるんですか。将来のことは何も考えていない。教育委員会はしっかり考えてもらいたい。

バス停に待合所をつくる。スペースがないんじゃないんだ。広いスペースをとってやりな

さい。20人、30人の子供が一団となって待合室に入ったらどういうことが起こるかですよ。何平米必要かということを経算してぜひやってもらいたい。

一つ一つやっていきますと長くなりますもので、プレミアム商品券に似たようなものを今回、緊急経済対策プレミアム観光商品券を発行する。総額は3億円ぐらいになるわけですね。先ほども言いましたけれども、じゃ観光客これによって1割アップされるのか、ただ使われるだけで終わってしまうんですよ、これ。どうやったら観光客がふえるのか、しっかり考えてもらいたい。まずそこから出発していただきたいんですよ。

もう既に、市長さん就任して1年以上たっているんだ。トップセールスだ、トップセールスだとおっしゃっているけれども、実態は何も上がっていない。ちょっと話それますけれども、修善寺道路の無料化だって公約でしょう。千葉県の森田健作知事は、アクアラインの通行料下げると言って現実に下げてしまっているんですよ。この間なっただけの県知事だ。冒頭おっしゃったように、先のことを考えるとどうなんだったら、今まで言ったことの結果を出してください。

地域要望を考えるんですか。市役所のそばの湯川橋、今現在でも歩行者はおっかなびっくり歩いているんだ。歩行者が通っていれば、大型バスは、路線バスは橋に入らないで待っているぐらいだ。ダンプがぶうぶうエンジン吹かして待っているぐらいだ。そういう危険な思いをしている市民が、今現在いるんです。2億円あれば歩道橋などすぐできるでしょう。

今回の補正予算は、まず地区要望は何も考えていない。お金を使うことが目的だけの予算にすぎない。幾ら国の補助といえども、我が国の国と地方の借金の総額、長期の借金の総額は800兆円を超えているんですね、数年後には世界一の借金国になるんだと。たとえ国の補助金といえども、無駄に使うべきものではないんです。余りにも使うことだけを考えている補正予算については、反対せざるを得ません。

反対討論を終わります。

議長（飯田宣夫君） 次に、賛成討論を行います。

8番、内田勝行議員。

〔8番 内田勝行君登壇〕

8番（内田勝行君） 8番、内田勝行です。

議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）についての賛成討論をいたします。

経済が長期にわたり低迷する中、伊豆市の柱である観光産業を発展させるため、基本的な基盤を早急に整備する必要があります。そのような観点から、主に観光振興を対象にした事業を実施することは決して誤った判断ではないと考えます。

今回の緊急雇用創出事業、臨時特例事業の交付金を有効に活用し、一刻も早い整備と観光産業のさらなる育成と発展を目標に、充実させることが重要であります。

現伊豆市の自主財源では、これらの事業を推進するには長期間が必要と思います。そのよ

うなことから、今回の交付金事業を活用し早急に実施すべきだと考えます。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 次に、反対討論を行います。

11番、大川孝議員。

〔11番 大川 孝君登壇〕

11番（大川 孝君） 11番、大川孝。

日程第1、議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）につきまして、反対の討論をさせていただきます。

私は、このたびのこの政府から発せられました緊急経済交付金6億2,000万余りにつきまして、未曾有の大不況の中で元気に国民の経済が活性化していくことがその主眼ではないかと思うわけでございます。

こうした6億2,000万の議案を提出するに当たっての行政側の考え方が、いかなものかと非常に私個人、疑問視する面があるわけでございます。

まさにこの大不況、いわゆる政府も大変厳しい財政事情を抱えているわけですね。ましてや地方自治体である都道府県も、同じくそのような厳しい財政事情でございます。その末端である我々地方自治体も非常に厳しく、予算編成が毎年なされなければならないという事態になっているわけでございます。

我が伊豆市を考えましても、平成21年度の予算137億のうちの四十数億円が自主財源でございまして、あとはいろいろの国や県からの補助金、もろもろのお金で賄っているということございまして、早く財政再建に向かって進めていくこの考え方、姿勢が非常に問われていることではないかと思うわけでございます。

そういう中、やはりこの議案の各事業項目を見ますと、やはりこれは広く3万6,000の市民のために緊急に使われるような議案かということにつきましては、私は非常に疑問があったわけでございます。

当然、一つを例にとります。橋のかけかえ、当然橋も寿命が来ればこれはかけかえをしていただかねばなりません。そういうものには、決して私は反対をしておるわけではございません。ただ、議案の中で2億2,000万というふうにただ出した中で説明ですと、やはり一方的なことの説明ではないかということでございます。やはり、かけかえにはこれぐらいの予算がかかるわけですが、いろいろの橋のつくり方、設計の仕方、いろいろの材料、コストの低減を考える中で、安くかけられるように努力しますという一言があれば、それなりに非常にいいわけでございます。

また、天城ドームの、いわゆる人工芝につきましても1億1,000万というお金でございますが、伊豆市がすべてあそこのドームを100%の運営管理費で予算を立てて管理しているわけでございます。金メダリストの、オリンピックの選手の強化合宿所にも指定されているような面もあるわけですが、できればそういう方面の大きな財団さんからも予算をいただける

中においての近代化を図る芝生の張りかえとか、建物すべての近代化を図るということにはいいわけですが、伊豆市の限られたこの小さな予算の中で運営をしていくわけですが、あそこにどんとそういうものを張りかえをしなければならぬかと、私は良質の土で、そしてまた最小限の整備を順次やっていくことによって、そうした中での浮いた予算を総合的に今回出された予算の中で、やはり市民直結のものに置きかえていただくということが非常にいいのではないかとこのように考えるわけですが。

ソーラーを一つとりましても、一応4,500万という市の庁舎の屋根におつけになるということですが、私はやはり、あと市民の住宅のほうには250万というそれこそ少しの予算の提案しかないわけですが、私はやはり地球温暖化とかそういうエコ環境に積極的に取り組もうということであれば、やはり一般住宅につきましてもそれ相応の予算を計上して、やはりそういうエコ環境に振興を図っていくということが大事であろうかと思うんです。

公共施設のものに多額のお金を使ってやることももちろん悪いことではございませんが、きょう現在におきましては、例えば市の庁舎ではなく、幼稚園とか小学校、中学校そういうところへそういうものを設置することによって、子供さん等に対してもやはり環境をよくするには太陽の光はこういうエネルギーをもって体にもいいですよと、また電気代もかかりませんよというようないろいろのことの勉強の材料にもなるかと思うんですね。

そういうことで今回、一般、いわゆる地域の、いわゆる地区要望の話も冒頭市長から話がありましたが、640ぐらいで非常にどれからやっていいか時間がないと、地区要望につきましては毎年、毎年の要望がありますので、どういうところからやっていいかどうかということは、もう計算が私はできていなければならないということですが、間に合わない、準備が時間が足りないということは、これはもう私は納得のできるものではないわけですが。

いずれにいたしましても、やはり伊豆市の財源、財政というものを考える中、3万6,000人の市民の日々の生活を、どうして上げていくかということですが。

もちろん、観光立市、観光につながる第一次産業の農業の振興にもつながっていくわけですが、観光一つとりましても、毎年、毎年の大型予算の中で、大変な補助金を毎年、毎年つぎ込んでおります。でございますので、決して私は今回出されました観光振興につきまして、何を削除した方がいいなんてことは申しません。上げられるものは上げていただくことがいいわけですが、そのいわゆる予算の配分の仕方、また格差、伊豆市市民の中において格差を広げるようなことを考えていくようなこともないとは思いますが、そういうことのないような広く予算の使われ方をやはり明確に、もう少し検証してお出しになっていただければというふうに感じたわけですが。

そういう意味で、どうかこの予算を再審議を、行政側をお願いしまして、そしてまた少しでも幅広い事業に、新しい事業にまた計上できるような仕組みを再提出していただければ

りがたいということで、そういう意味におきまして、私は今回のこの6億2,000万余りの出されました議案に対しましては、反対討論とさせていただきます。

以上でございます。

議長（飯田宣夫君） 次に、賛成討論を行います。

2番、梅原泰嗣議員。

〔2番 梅原泰嗣君登壇〕

2番（梅原泰嗣君） 2番、梅原泰嗣です。

議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）につきまして、賛成討論をします。

賛成の理由としまして、2点ございます。

まず第1点は、今回の交付金にかかわる執行スケジュールの期限から、計画の差しかえは事務処理上困難であると思われまます。

2点目としましては、計画で今議論になっております出会い橋かけかえ工事並びに太陽光発電設備設置工事についての2点です。

まず1点目なんですが、皆さんご存じのとおり、この4月に経済危機対策として国会で1兆円の補正予算が可決されました。この臨時交付金につきまして、自治体に通知が来ましたのは5月の中旬。そして、計画案の提出が6月の末です。

現時点では、これは私の推測ではありますが、内々で既に県のほうで承認はいただけておるというように考えております。また今後、議会決定をしまして最終的な実施計画を提出する予定の段階に今来ているというように私は考えております。

この最終的な提出につきましては、具体的な日程は説明はございませんでしたが、秋ごろということでしたから、秋といえは9月の末から11月末ぐらいでしょうか。例えば、その期間で128名の区長さんから出ています地域の要望内容に差しかえ等を考えますと、先日、菊地市長さんからも説明されましたが、この地域の要望につきましては土木工事が非常に多いわけですね。仮にその中から選択をしましても、やれ国道、県道に関連し、国・県への申請の手続それから費用の見積もり等にかなりの時間を要します。したがって、私は現実的にこの差しかえは難しいと考えております。

次に2点目なんですが、出会い橋は観光施設と私は理解しております。皆さんもご存じでしょうけれども、修善寺温泉の独鈷の湯をよくしたように更新すべきだと思います。観光施設を削減して観光事業の発展はないと考えます。今回の臨時交付金を財源としないでいずれ伊豆市の財源を使うならば、言い方はちょっと悪いかもしれませんが、上から降ってきた交付金ですので、この機会に投資すべきと考えます。

また、太陽光発電設備ですが、今回の交付金の事業例の一番の最初に地球温暖化対策というのを掲げてあるわけなんですね。したがって、これは京都議定書の取り組みまたはCO₂削減ということで、国・県は指導せざるを得ないと考えております。確かにこの設備の必要

性、費用対効果の観点から見ますと、私も異論は当然あると思います。しかし、国・県の指導に対するポーズかもしれませんが、交付金をいただく身といたしましてはやむを得ないかなと考えます。

最後になりますが、地域活性化としまして、交付金5億1,200万ですか、この金額をできる限り地元に戻元してほしいと思います。例えば、出会い橋の工事なんですが、専門的な技術が必要な部分、橋梁ですね、しかしそれ以外の橋の土台、あるいは河川工事等には市内の業者の方に担当していただくようお願いして、賛成討論を終わります。

ありがとうございました。

議長（飯田宣夫君） 次に、反対討論を行います。

6番、西島信也議員。

〔6番 西島信也君登壇〕

6番（西島信也君） 6番、西島信也です。

私は、本予算案に対しまして反対討論を行います。

本補正予算の主なものは、国庫補助金である地域活性化・経済危機対策臨時交付金をどのようにその交付の趣旨に沿って使うかというこの一点にあります。

この臨時交付金はちなみに5億1,200万円という巨額なものでございます。この交付金は、これを予算化し、執行することによって100年に一度と言われている経済不況に立ち向かい、地域を少しでも活性化し、もって市民が安心して暮らせるようにするために交付されるものであります。

私は、この臨時交付金は一つは伊豆市経済の活性化を図る、もう一つはせっかくの特別のお金ですから、通常の予算ではなかなかできない事業に有効に使うべきではないかということとであります。

1つ目の伊豆市経済の活性化については、この予算案ではとてもではありませんが達成できません。理由を挙げれば、太陽光発電設備設置工事、これ4,500万円。この事業を行うとどれだけ地域経済が活性するのか、恐らくいい目を見るのはソーラーパネルのメーカーとその傘下の設置業者だけではないでしょうか。

出会い橋のかけかえもしかり。天城ドームの人工芝の張りかえも同様であります。どこに金が流れていくのか。皆伊豆市以外のところに金が流れていく。そういうことを考えるのは、そういうことは明白であろうと思うわけでございます。

市長は、将来の伊豆市の観光の活性化ということをおられますが、効果があるのかないのかわからないようなものに大金を投ずるよりも、もっと直接伊豆市の経済が潤うようにするのが市民の利益につながるものではないでしょうか。

次に、2つ目の通常の予算ではなかなかできない事業にどれだけ有効に使うかという点であります。私は、その件につきましては、安心・安全のための地区要望に使うのが最も有効であろうかと思えます。私はこの予算案の最大の欠陥は、地区要望が1つも取り入れられて

いないということだと考えます。市当局は合併以来、区町内会・自治会から毎年地区要望をとっております。その内容は、道路側溝の補修から通学路の歩道の整備、がけ崩れ対策、さらには防犯灯の設置等々、いずれも住民の安心・安全のために要望しているものばかりであります。事故・災害が起きてからでは取り返しがつかないものであります。先月の山口県の老人介護施設の土砂崩れ災害、これも記憶に新しいところであります。しかしながら、毎年市の予算は限られておりまして、要望事項のほとんどは今現在採用をされておられません。事業化されておられません。そこで、思いもかけない予算がおりてきたときこそ、住民の切実な要望を可能な限り聞くことが自治体の、本来の務めではないかと思うわけであります。

市長は、この臨時交付金の使途については将来の産業振興、とりわけスポーツによる観光振興が大事で、それが若い人たちが伊豆市に残れるための政策だと力説しているわけであります。

それでは、今現在、伊豆市に住んでいる人たちの要望はどうかといいますと、それは我慢をしてくれと言っているわけです。私から言わせますと、それは余りにひどい物言いではないかと思うわけです。市長の言う若い人を呼ぶ政策、それはそれで結構でございますが、そのかわり年寄り、高齢者は切り捨てるぞ、そういうことを言っているとしか聞こえません。こんなことでいいのでしょうか。大多数の住民の要望にこたえられていない、一部の人たちの利益にしかならないこのような予算案を提案してきたとは、まことに残念でなりません。

そこで結論ですが、本予算案は伊豆市経済の活性化がほとんど図られようとしていない、住民全体にかかわる安心・安全のための施策、地区要望が1件も入っていない。このような市民無視の予算案は、とてもではありませんが容認するわけにはまいりません。

以上の理由で、私は本予算案に反対をいたします。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 次に、賛成討論を行います。

7番、杉山誠議員。

〔7番 杉山 誠君登壇〕

7番（杉山 誠君） 7番、杉山誠です。

議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）について、賛成討論をさせていただきます。

この補正予算は、主に国の地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用した事業であり、100%国の補助ということから、この交付金を活用しなければできない事業が多く計画されております。

厳しい財政状況に置かれている当市の現状と将来を見据えて編成された内容であると確信するものであります。

まず、市道出合い橋線のかげかえについては、住民の生活道路として欠くことのできないものであり、また市内有数の渓谷美を誇る湯ヶ島温泉を訪れる観光客の散策道として、そし

てホテル祭りのときには、一度に多くの人が利用するにもかかわらず、木造橋であることから腐食が進んで大変危険な状態に置かれているものであります。早急な対策が求められていたことから、今回の臨時交付金を活用することが最善の策と考えます。また、湯道の復元工事を行うことにより、地域の魅力が増すとともに、住民の地域活性化への意気込みも高まることが期待されます。

次に、スポーツ施設等の改修工事については、市単独事業の伊豆三カプロジェクト推進事業とあわせて、伊豆市の持つスポーツ施設と優位性を生かした事業を推進することにより、誘客増を図るために必要なものであり、これも市の単独予算では容易にできるものではありません。

そして、プレミアム観光商品券発行は低迷する市内観光客の増加策として必ず効果があると期待をしています。先日、私は土肥地区を歩いたのですが、金曜日の午後なのに宿泊客の予約を書いていないホテルを何軒も見かけました。確かに天候不順のせいもあるかもしれませんが、このままの状況が続けば経営が成り立たないことは、はたから見てもわかりました。もし閉鎖に追い込まれたとしたら、そこで働いている人たちはどうなるのでしょうか。旅館、ホテルでは多くの人を雇用しています。家庭環境に恵まれない人もいます。また、住み込みの場合は、たちまち住宅に困窮してしまうでしょう。

次に、新エネルギー利用促進事業の生きいきプラザ太陽光発電設備の設置ですが、皆さんご存じのように地球温暖化問題は待ったなしの状況にあり、世界全体の温室効果ガスの排出量を2050年までに半減させなければ、地球環境は破滅的な影響を受けるおそれがあるとされています。こうした状況の中、環境対策を思い切って実行することによって、環境問題を解決するとともに経済危機を克服しようという考え方がグリーン・ニューディールとして国際的な潮流になっています。こうした中、日本の最先端の環境技術を生かして新エネルギーの普及を進め、国際的な優位性を確立しようと国を挙げた取り組みが始まっており、新たな産業と雇用の創出に期待がかかっています。

伊豆市としても、住宅用の設置補助金とあわせて、今や喫緊の課題となっている地球温暖化対策の一環として、新エネルギーの普及・促進を図る広告塔として、公共施設への太陽光発電設置は大変意義あることと思います。

一方、屋根の上につけた設備を直接見ることができないという弱点も考えられますが、モニターを設置して現在の発電量や環境負荷を減らす啓発を行うことで、それを補うことも可能と考えます。また、最近は屋根がわらと一体化して、外観からわかりにくい建材共用のパネルに人気が集まっているそうでございます。

そして、住宅用火災警報装置購入費補助や緊急雇用創出事業による不法投棄ごみの回収的を射た事業であり、さらには女性特有のがん検診の推進にあっては基準日が6月30日とされているもので、市町村によっては検診手帳や無料クーポン券の交付が進んでいる地域もあります。検診率を高めるためには、一刻も早く住民に交付する必要があります。特に、子宮

頸がんは低年齢化が進んでおり、年間2,000人ほどが命を落としているそうでございます。若い女性がこれらの疾病により命を落としたり、あるいは小さな子供を抱えて病気になって苦しんでいる家庭、そのような家庭を先日報道されておりましたけれども、やはりさまざまながん対策は必要ではございますけれども、これは特に早急に進めなければならないということで、国の打ち出した政策でございますので、伊豆市としてもいつときも早く実行に移されることを望みます。

これらの事業執行を遅らせることは、市民への重大な背信行為になると考えます。今回の補正予算は、経済対策の即効薬として、特に観光に的を絞って市長から提案されたものです。確かに、観光以外にも施策を講じる必要があるところはたくさんあります。農業経営も大変です。他の産業振興も大きな課題です。危険地域に住んでいる方も大勢います。安心・安全の暮らしを守る必要もあります。地区要望も数限りなくあるでしょう。市民の要望は無量大にあります。すべての市民を満足させる予算ではないかもしれませんが。

しかし、皆さんよく考えてみてください。この交付金は単年度限りであり、しかも経済危機対策とうたわれているとおり、早期の事業執行が必要ではないでしょうか。もし仮にこれを組み替えることができても、残された期間は限られてしまいます。無料がん検診の受診率を上げることも必要であるし、プレミアム観光商品券は早くしなければ秋の観光シーズンに間に合いません。繰り返しになりますが、すべての要望を満足させることが不可能であれば、市長提案の予算を早く事業化して少しでもその効果を高め、交付金を有効に使い切ることが、伊豆市全体の利益にかなうのではないのでしょうか。

本予算の成立することを強く求め、賛成討論とさせていただきます。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 次に、反対討論を行います。

20番、木村建一議員。

〔20番 木村建一君登壇〕

20番（木村建一君） 木村建一でございます。

議案第57号の一般会計補正予算案に対して反対討論を行います。

今までさまざまな方が討論されてきましたが、私は今回の補正予算というのは今までの中身と違くと、何回か賛成それから反対討論の方が言われていましたけれども、今回の補正予算のほとんどは地域活性化・経済危機対策臨時交付金なんですね。それがどういう目的でやろうとしているのか、国はまず第1に地球温暖化対策、2つ目に少子高齢化社会への対応、3つ目に安心・安全の実現、最後にその他将来へ向けた地域の実情に応じた地域活性化などに資する事業を行うために、地方公共団体が作成した地域活性化・経済危機対策実施計画に基づいて実施する事業に対して、国が交付するということなんですね。もう一方では、地域活性化の速やかかつ着実な実施を図ることを目的とするんだと、これが今回の交付制度の要綱の中にはっきりうたわれている。ではその立場から、今回の補正予算どうなのかというこ

とを見る必要があると思います。

提案内容を見ますと、一回こっきりですね、この何とかの対策用に、私、やられたと思うんですけども、一回こっぴりの自己負担なしの女性のがん検診、50%アップしましょうと、この受診率を。国はやっているんですが、果たして一回こっきりで本当にやるのかどうか、あとは自治体の皆さんどうぞやってくださいということが本当に正しいのかどうかはおいておいても、今回100%補助しましょうということですから、そういうことに態勢を受けて、伊豆市もやっていきたいということについては評価をします。

もう一点は、住宅の火災報知機購入補助、これは今からではなくて提案の中にも、委員会の中でも私参加して論議させていただきましたが、平成18年6月1日までさかのぼりますと委員長報告で読みましたけれども、そういうふうにさかのぼってやっていきましょうということについては、本当に経済危機対策交付金が目指している安心・安全を守る補助金という目的が、私は具体化されておるということに評価しております。

しかしながら、総務省内閣府が今回の地域活性化・経済危機対策臨時交付金の実施に当たっては、地域の中小企業の受注機会に配慮するよう求められているんです。この視点から提案されている内容でしょうかということです。

地域経済が停滞しているわけですから、できる限り市内企業・事業所の支援を考慮しているのかどうかという疑問が残ります。この件については最後まで触れますけれども、反対する第一の理由は、市長は今回は低迷している観光を重視したと提案理由の中で述べております。私は、伊豆市にとっての重要な産業に観光があることには同意をいたします。が、低迷しているのは観光だけでしょうか。地域の主要産業であるワサビ価格は、いまだかつてない値下がりかしているという声が聞こえてきました。シイタケも価格の低迷と同時に、シイタケ原木がシカの被害で大変な状況だと、被害を受けている。それぞれの生産者の意見を聞いて必要な対策を求めるものです。

観光支援では、6月議会の宿泊客対策、4人泊ったら1人はただにしますということで宣伝費をぜひ市のほうにお願いしたいということで、6月議会で議決され執行されている途中なんですけれども、いわゆる宣伝費を500万円ということですが、今回これに引き続いて、今回は伊豆市に宿泊した方に10%のプレミアム観光券を発行したいという内容です。

委員会の中で傍聴していて、伊豆市民も忘年会等にも使っていただければ別に観光客だけじゃありません、確かにそうでしょうが、圧倒的多数は観光客相手なんです。約3,000万円のお金を市外の方にプレゼントしていこうということなんですけれども、5月15日から販売をした、もりもり振興券は1カ月足らずで完売いたしました。伊豆市内でお金を循環させるということが地域経済を支える事業所の経営を支えて、市民生活を支えることにつながります。

批判ばかりではなくて、具体的に提案をいたします。6月議会での500万円の観光支援によって4人宿泊したら1人分の宿泊代金サービスが、途中経過ですけれども、今どうなって

いるのか把握すること。そして、宿泊客をふやすために、観光関係者が今どんな努力をしようとしているのかが不透明なまま、観光客が減って深刻だからプレミアム観光振興券を発行すればいいという判断は、私にはできません。

年度内に3,000万円の支援がほとんど使える取り組みの保証があるのかも含めて、市当局はぜひとも把握をしていただきたい。なるほど、市民の税金が宿泊施設に使ってもらっても有意義のある取り組みであるというふうにあるならば、その必要性はその時点では私はあると判断しております。今ではできません。私は同じ振興券でも使う対象がほとんど違う、地域の経済振興の度合いが強い、元気もりもり振興券。これが1カ月足らずで完売したということは、追加をすることは検討に値すると思います。

第2に、土肥小学校の校舎の外の塗装よりも、委員会の中での、聞いていましたけれども、クーラーを入れて暑い教室での勉強をしていくということが、失礼しました、暑い教室ではだめだと、本当に快適な教育環境の中でやっていくことが、保護者や児童、そして教師が望んでいるよりよい教育環境だと私は思うんですね。校舎をきれいにしたいと、新しい学校なんだからという気持ちはわかりますけれども、外壁をきれいにすることが第一義的な課題とは私は思いません。

第3に、公共施設への太陽光発電設備を私は一概に否定するものではありませんし、この事業に投資した費用に対して、幾ら稼げたかという見方を私はしません。

市長は、きょうの冒頭で運用面をこうやっていきたいというお話でしたのですけれども、中身見ますと今回の太陽光発電の設備の提案というのは、総務費の中の管財費の中の1つなんですね、いわゆる款項の中にこう全部ひっくるめてこれ1本しかない。ですから私は、運用面といったときにどうするのかなということでもちょっとわからないんですけれども、地球の存続は懸念されているわけですから、地球に優しいエネルギー開発という角度からこの事業を考える必要があると思います。

したがって、市民や事業者に太陽光発電を啓蒙して、実際に設置しようという行動に移ってもらうようにしようと考えたときに、生きいきプラザの屋上が適切かということを目指しておきたいと思うんです。どういう設置条件だったら市民への啓蒙に値するのか、その内容に市当局との違いが出てきたんですけれども、私は市民や事業者がどういう発電装置なのかが目で見えて、そしてその発電状況が数字でわかるようにしたほうがよりよい選択だと考えます。

太陽光パネルを半分にするのか、3分の1なのか、2分の1なのか、他の公共施設の状況で変更はあり得ると思いますから、そこまでの提案は私できませんけれども、いずれにしても生きいきプラザへの屋上のことが本当に正しいのかな、そうすると、あれだけ広いところに設置箇所というのはなかなか公共施設の中、見当たらないものですから、やはり今よりも小さくをして、本当に啓蒙に値するような投資をやはり私はやっていただきたいというように思います。

第4に、出会い橋のこのかけかえの問題がまた大きな論議になっているんですけれども、私はこの出会い橋のかけかえは湯道と一体となって考える必要があると思います。橋をかけるなという立場での討論の参加ではありません。条件整備が整っていないということです。橋は有効だと、確かにそうでしょう、安全な橋ができれば。でも、橋ができたからといって、利用は今までどおり、行ってもお客さんが余りいない。せいぜいホタル祭り、もみじまつり、もみじの紅葉の季節に限定されたことによって1年間の中でどれだけやれるのかということ、私はやはり気になるところです。

利用が今までどおりならば、私はその地域の活性化には役立たない単なるお飾りの橋になってしまうのではないかと、今の時点でそう思います。町の時代に1億6,000万円の工事費をかけて建設して、湿気に強いと言われたアフリカ産の木をわざわざ購入して、輸入して50年、100年もつと言われた話題性のある橋が、わずか17年で朽ち果てようとしております。

市長がよく言われる過去よりもこれからが大事と言われます。確かに、私も未来のほうが大事だと思います。しかしながら、同じ過ちを繰り返さないために、また過去の教訓をこれからも生かすためにも、未来のために過去をきちんと総括する必要があると私は思います。

ある意味では、天城湯ヶ島町のお荷物的存在だった橋を、解体費用も含めて2億円もお金を投資しようというのですから、この地域に訪れた観光客が本当にすばらしい自然環境だねと散策できるような形に整備していくことと同時に、市民にも利用できる、そしてもう一度、また再び何回でも湯道を散策したいと思えるような湯道にするために、こういうふうにするんだよという未来への展望があつてこそ、私は初めて橋が生きてくると思います。

残念ながら、17年間の中で、あそこをにぎわって行列するわけじゃないんですけれども、お客さんがたくさん来てね、市民が利用しているなんていうことは私は見たことがないんです。橋を建てたら、じゃ、それで済むのかという問題じゃない。全体の構想の中で私は橋のかえかえをぜひとも検討していただきたい。そうしない限りは6億円のうちの2億円が、約3分の1がここに投資されようとしているわけですから、その辺は十分に検討するに値すると思います。そして、それらの未来の湯道を含めた、そして橋も含めた、どういうふうな形で観光客や市民が利用できるのかというそういう展望を市も含めた関係団体が議会と市民に私は示すべきだろうと思います。その中で、2億円が妥当なのかどうかも含めて、もう一度精査してほしいと思います。

冒頭お話しした地域の事業所等々についてですけれども、私は今幾つか述べましたが、それらの事業の見直しで、私は差額分が出てくると思います。残念ながらそれだけの資料が私の手元にありません。ある程度浮くでしょう。私は他の公共施設、市営住宅や保育園、幼稚園など、建物の改修・修繕にその費用を充てることを提案します。

9月議会や来年度予算の前倒しを今回もやっているわけですから、そのようなことを前倒しをして、なるべく多くの市内業者に仕事を提供することが、今回の補正予算の性格、経済危機対策交付金に見合った内容だと思います。

長い間かけて調査をし、検証をして、半年後にやりましょうという問題の性格のものじゃないと思うんです。今、私が提案した公共施設、市営住宅、保育園等々の改修等については、市が握っているものですから、それはそんなに難しいことじゃないと思うんです。子供の出生数が減って深刻な伊豆市にあって、内閣府の少子化対策の拡充活用事例、幾つか挙がっております。準要保護児童生徒への就学援助の拡充の問題や幼稚園就園の保育料等の軽減など、極めて残念であることですが、余りたくさんの要求をしても、それは6億数千万円の中で限定されていることのものでありますから、この件については少子化対策の一環として今後の予算編成の中で検討していただくことを要求して、反対討論を終わります。

議長（飯田宣夫君） 以上で討論を終了いたします。

これより採決を行います。

議案第57号 平成21年度伊豆市一般会計補正予算（第3回）を採決いたします。

本案に対する総務教育委員長、経済建設委員長の報告は否決です。福祉環境委員長の報告は可決であります。

議案第57号について原案のとおり決定することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（飯田宣夫君） 起立者少数。

よって、議案第57号は否決することに決しました。

ここで休憩をとりたいと思います。11時15分まで休憩したいと思います。

休憩 午前11時03分

再開 午前11時15分

議長（飯田宣夫君） それでは、休憩を閉じ会議を開きます。

初めに、13番、古見梅子議員から県農業委員会体験報告の事例発表のため、静岡のほうへどうしても行かなければならないということの早退届が出ておりますので、これを許可いたしましたので、報告いたします。

日程の追加

議長（飯田宣夫君） お諮りします。

お手元にお配りしてあります追加日程のとおり、この1件を日程に追加し、追加日程とし議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） 異議なしと認め、この1件を日程に追加することに決定いたしました。

議案第58号の上程、説明、質疑、討論、採決

議長（飯田宣夫君） 追加日程第1、議案第58号 平成21年度伊豆市公共用地取得事業特別会計補正予算（第1回）を議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 菊地 豊君登壇〕

市長（菊地 豊君） 議案第58号 平成21年度公共用地取得事業特別会計補正予算（第1回）について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、修善寺温泉場内にて道路用地を先行取得するため400万円の土地購入費を追加する内容となっております。

財源につきましては、基金からの繰入金を充当するものです。

詳細につきましては総務部長に説明させますので、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

議長（飯田宣夫君） これをもって提案理由の説明を終わります。

提案理由の説明に関して補足説明の申し出がありますので、これを許します。

総務部長。

〔総務部長 平田秀人君登壇〕

総務部長（平田秀人君） それでは、補足説明を申し上げます。

ただいま市長が申しましたように、公共用地の取得事業会計におきまして用地取得、これに係ります案件を1件追加補正させていただくものでございますけれども、この購入予定をしております道路用地でございますけれども、静岡地方裁判所の沼津支部におきます競売案件の土地購入ということでございまして、今回緊急にここで追加をお願いしたというのは、この入札参加するに当たりまして予算措置が必要であるというようなことと、それからこの入札の期間でございますが、これが8月26日ということで期日が迫っております。そういう形でこの情報等を入手しまして、これに参加したいという形でこの予算化をお願いしまして、この入札参加をしたいということでございまして、その案件でございます。

予算は400万ということで、土地購入費ということで計上させていただきます。基金、土地取得会計の基金がございますので、その基金を財源として先行的に道路用地という形で本会計で先行取得させていただくということでございます。議決後におきまして、直ちにこの物件の調査といたしまして、これに参加すべく進めていこうということで、その予算措置として必要なものでございます。

購入予定地でございますが、修善寺の温泉場の915番の4、宅地72.83平方メートルでございます。店舗居宅も付随してございますけれども、この土地につきましては修善寺温泉場の図面がございますけれども、笥湯、それから菊屋さんの駐車場前の神戸南線、それがいわゆる直角に曲がっております市道でございます。幅員的には、現状3メートルあるいは3.5メートルの幅員でございまして、特に現状でもこの直角に曲がったクランクといいますが、こ

れが普通車でも走りにくい箇所でございます。あわせて、現在検討を進めております南温泉場線、上部でございますけれども、これらの改良計画等も進めている中でございますけれども、このいわゆるコーナーの用地、これについて道路用地として求めたいということでございます。

以上、補足説明といたします。よろしくご審議をいただきたいと思っております。

議長（飯田宣夫君） 以上で、補足説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

20番、木村議員。

20番（木村建一君） 一つだけお尋ねします。

緊急性があるということで、議運でやりなさいということで、それを尊重しながらお尋ねします。

今、部長がお話しなされた入札期間が8月26日でしたね。やはりまたもう一回臨時会となると、それはいかがかと思うんですが、一点だけお尋ねしたいのはこれがわかったのはいつですか。

それだけです。

議長（飯田宣夫君） 総務部長。

総務部長（平田秀人君） この8月の初旬でございます。うちのほうで情報を得たのはその時期でございます、このちょうど審議をいただいている期間というようなことでございましたので、次の議会でということにまいりませんので、急遽お願いしたという経過でございます。

議長（飯田宣夫君） よろしいですか。

〔「はい」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） そのほか。

西島議員。

6番（西島信也君） 6番、西島です。

この角の用地でございますが、まことに取得するのは、道路用地として取得するのはまことに結構じゃないかと思うわけですが、現在ここはスナックの建物があるわけなんです、スナックかずというのがあるんですけれども、取得した暁には早期にこの建物も取り壊すのか、どうなのかお伺いをいたします、予定ですが、お考え。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 総務部長。

総務部長（平田秀人君） 当然、道路用地ということでございますので、そこは取り壊したいということでございますが、現状はまだ営業しているという状況かなということでございまして、その辺、今回これで予算措置をいただいて少し詳細な調査をいたしまして、いわ

ゆるこの参加する入札価格だけではございませんで、その辺を調査の上、建物等ございます。取り壊し費用等もやはり200万ぐらいかかるのかなといふうには思っておりますが、その辺は少し調査をした上で、最終的にこれに参加するかどうかということは決定したいということでございます。

議長（飯田宣夫君） よろしいですか。

〔「はい」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） 12番、森議員。

12番（森 良雄君） 12番、森です。

欲しいという意思表示だけでね、例えば面積がどのぐらいだ、ちょうど競売だということですから、当然最低価格なんかも出ているのではないかと思うんですけども、何も、この欲しいということと場所しか議会に出てこないわけですね。それで、道路用地だと。これ道路用地として今まで計画があったのかどうなのか。まず1点ですね。

ここは住宅密集地でね、道路を拡幅したいので購入したいのだと思うんですけども、例えばこの緑色の字で神戸南線なんて書いてあるところ、これはいわゆる金龍のところだと思うんですけどもね、この方が売る気があるのかどうなのか、道路広げるから売ってくれと来たらね。もしこの方が拡幅に前向きな方だったら、当然買えばすぐにこの道路改良ができるだろうと思いますけれどもね、まあちょっとそんなことはあり得ないんじゃないかと僕は思うんですけども、地元のお考えはどうなんですか。それで、ここだけ、この金龍の前だけやっても、この図面からいって横に走っている、いわゆる御幸橋の駐車場のほうへ行く道路なんていうのはもう密集地で、恐らく何年たっても拡幅のあれなんかないんじゃないかと思うんですけどもね。その辺の見通し、お聞きしたいと思います。

それとね、こうやってこの情報が入ってくるのだったら買えるというようなことなんですけれども、例えば市長さんね、市長さんは修善寺橋から鮎見橋のほうへ拡幅したいというようなお考えを表明したことがありますよね。

今、あの交番のそば、旧中央書店のところ、売りに出ていますけれども、今買わないと永遠に市長さんの構想は成り立たないと思いますけれども、今もしお答えする気があったら答えてください。

以上です。

議長（飯田宣夫君） 答弁願います。

先に、建設部長。

建設部長（小川正實君） それでは、この今回の競売の物件についてのちょっとご説明をさせていただきます。

金龍さんの跡地につきましての拡幅の了解というものはとれておりません。ですけれども、以前に一応お話はしてありますけれども、拡幅に土地を提供していただけるという約束はとれているわけではございませんけれども、ここは角地に当たりまして、非常に御幸駐車場の

ほうへ曲がるのに不便なところでございます。

もう一つは3104715号線、温泉場1号線という10メートルちょっとぐらいの短い道路がここにあるんですけども、これが狭くて階段状になっております。実は先ほど総務部長のほうからちょっとご説明ありましたけれども、南温泉場線の、ちょっと括弧して一方通行化と書いてございますけれども、今温泉場のまちづくり検討委員会のほうで、一つの案としまして、一方通行化も検討されているようでございます。そういうことから、この南温泉場線の拡幅も、できる限り今後進めていきたいというふうに考えています。そうしますと、この南温泉場線から県道への連絡道ということも、車での連絡道ということもこれから考えていきたいと思えます。

そういう意味で、公共用地土地取得事業特別会計のほうでこの物件を先行取得ということで、先に押さえていきたいとそういうふうに考えております。

以上です。

議長（飯田宣夫君） よろしいですか。面積とかそういうのはどうしたの、取得面積とか。

〔「総務部長が言ったんですよ」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） 総務部長、さっき面積言いましたよ。

〔「言った、もう一回、資料だけだ。もう一回、それ伺っておきたいと思えます」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） では、もう一度。

総務部長。

総務部長（平田秀人君） 面積については、宅地72.83平方メートルでございます。

議長（飯田宣夫君） よろしいですか。

〔「最低価格は、言ったの」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） 最低価格を、総務部長。

総務部長（平田秀人君） 売却の基準価格は362万、買い受け可能価格289万6,000円という公告でございます。

議長（飯田宣夫君） 森議員。

12番（森 良雄君） 基金としか、ここには書いてないんだけど、基金の名前は何て言うんでしょうか、お伺いしたい。

議長（飯田宣夫君） 総務部長。

総務部長（平田秀人君） 公共用地の取得事業の持っている基金でございまして、正確なちょっと名称はまた後ほどお伝えしたいと思いますけれども、この会計はいわゆる基金で持つかあるいは土地で持っているんだというものでございまして、19年度決算で9,500万ほど基金でございます。それを一たん財源としてこの土地の取得をして、それから道路計画として具体的になった場合には、いわゆる一般会計のほうでまた買い戻していただくというものでございます。

議長（飯田宣夫君） 森議員。

12番（森 良雄君） 本当に必要な購入してもいいわけですがけれども、今伊豆市はね余分なものはどんどん買ってもらいたいと言っているいろんな土地を売却しようとしているわけですね。その一方で、本当に道路計画があるのかどうなのかも判然としないでまた買うと。この近くでは御幸橋の御幸荘の跡地を購入したときも、使用目的なしでただ買おう買おうというね、まあ地元の要望だったということですがけれども、買った、結果は何も使えないからしょうがない、御幸荘を解体して駐車場になっていると。一番いい例は、あれですよ、船原ホテルの寮の跡地ですよ。いまだに使用目的がはっきりしないという、ただ同然で売っ払ってしまったと、あれだって恐らく地元要望で買ったんでしょ。ですから、はっきりやっぱりね使用目的をはっきりしてね、これはもう道路のために使うんだと、いわゆるその辺本当に前々から計画があって必要なものを買うんだたらいいですがけれどもね、ただ土地があったから買いましょと、それはちょっと無駄遣いに過ぎるんじゃないかなと。十分に検討してお買いになってください。

議長（飯田宣夫君） そのほか、質疑はございますか。

以上で質疑は終わります。

お諮りします。

ただいま議題となっております本案は、会議規則第37条第2項の規定によって、委員会付託を省略することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

議長（飯田宣夫君） 異議なしと認めます。

よって、委員会付託を省略いたします。

これより討論に入ります。

討論はありますか。

〔発言する人なし〕

議長（飯田宣夫君） 討論なしと認めます。

これで討論を終結いたします。

これより採決を行います。

議案第58号 平成21年度伊豆市公共用地取得事業特別会計補正予算（第1回）について原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（飯田宣夫君） 起立者多数。

よって、議案第58号は原案のとおり可決されました。

閉会宣告

議長（飯田宣夫君） 以上で、本日の議事はすべて終了いたしました。

これにて、平成21年第3回伊豆市議会臨時会を閉会いたします。
ご苦労さまでした。

閉会 午前11時32分